

2019(令和元)年度 事業報告書

(2019(平成 31)年 4 月 1 日から 2020(令和 2)年 3 月 31 日まで)

学校法人 松蔭女子学院

目次

はじめに

理事長、学長、校長メッセージ	1
「主体性」「自主性」を育む場	1
I 法人の概要	5
1. 法人設置の目的、建学の精神	5
2. 学校法人の沿革	5
3. 設置する学校、学部学科、入学定員等	7
4. 役員（理事・監事）に関する事項	8
5. 評議員に関する事項	8
6. 教職員に関する事項	8
7. 校地・校舎等面積	9
II 事業の概要	9
1. 法人	9
2. 中学校・高等学校	12
3. 大学	24
III 財務の状況	44
1. 経年比較	44
2. 財産目録	47
3. 監事の監査報告書	48
4. 借入金の状況	48
5. 資金調達の状況	49
6. 寄附金の状況	49
7. 主要資産負債の内訳	49
8. 補助金の推移	49
9. 科学研究費補助金の受入状況	49
IV 対処すべき課題	50
1. 中学校・高等学校の教育関係	50
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	50
3. 大学の新学部・新学科等の増設等	50
4. 大学の教育・研究関係	50
5. 大学の学生募集計画	51
6. 施設・設備関係	52
7. 財務関係	52

学校法人 松蔭女子学院

2019(令和元)年度 事業報告書

(2019(平成 31)年 4 月 1 日から 2020(令和 2)年 3 月 31 日まで)

「主体性」「自主性」を育む場

学校法人松蔭女子学院

理事長 中村 豊

本学院の経営・運営の責任者が新たに選任され、4年任期が満了となったのが2020年3月であった。この間の主な出来事としては、本学院創立125年の2017年に学院・中高・大学のモットーを制定し、本学院創立130年の2022年を目標に中期計画が中高・大学で策定された。2016年、大学入学者は400名を切ったが、様々なニーズに合わせた学科カリキュラム改変が功を奏して次第に入学者が増加し、2019年4月に教育学部教育学科を開設した。この年は大規模大学の入学定員超過率厳格化の流れもあり、600人を上回る学生を確保できた。

一方、2017年度以降は中学入学者が100名を下回るなか、2018年に設置された「中高将来構想委員会」は、校長の権限を明確化し学校運営を円滑に実施するための規程改正を行い、また、「英語の松蔭」をアピールするため、聖ミカエル国際学校との協働関係を提案し、2019年、同校と教育提携を結んだ。2020年1月、新たな教育カリキュラムのもとで実施された入学試験であったが、中学は100名を上回る入学者を確保するに至らなかった。兵庫県の女子私立中学受験者減少に歯止めがかからないなか、幅広く意見交換をする場として諮問機関的組織を設置することが求められるであろう。

新型コロナウイルス感染者が日本で最初に確認されたのが2020年1月16日で瞬く間に感染者が増加し、政府は2月27日に全国の学校に休校を要請した。この影響で高校卒業式は保護者のみの出席で挙行し、大学の卒業式は中止となった。今までに経験したことのない事態に遭遇した本学院各校は、対面から遠隔に切り替えての授業実施を決定し、2020年度を迎えた。

教育目的の1つに生活準備説というのがある。これは将来の社会生活に対する準備をするという考え方で、子ども(18才未満の者)は「まっさらな器」であり、大人がもつ知識や技能、価値を子どもたちに注ぎ込んでいくことが必要であるとする。従って、子どもの器のなかにいかにして多くの事柄を詰め込むか、他人よりより多くの知識を習得すること、これが人間の優劣を分ける基準としてしまう危険性がある。

一方、「子どもの権利条約」は、世界中の子どもが健やかに成長できるようにとの願いを込めて、1989年に国際連合総会で採択され、日本も1994年にこの条約を批准した。教育とは、子ども自身がもっている能力を最大限のばし、人権や平和、環境を守ることなどを学ぶためのものである。そのためには大人の助けが必要という子ども目線で作られている。教育の主体は子ども自身である。

本学院モットーである「一粒のからし種」は無価値な存在ではない。それぞれの種の個性が尊重され、自ら学び自ら行動する力としての「主体性」「自主性」を育むことによって学びを深め、脱皮して大きく成長する場として本学院の存在意義がある。

教育学部のスタートとさらなる教育の充実

神戸松蔭女子学院大学

学長 待田 昌二

2018年度に学院創立130周年に向けた中期ビジョンを策定し、2022年度までの教育方針を定めた上で、2022年度までの中期目標を掲げた。2019年度事業計画は中期ビジョンに基づくはじめての事業計画であった。2019年度はまた、教育学部開設により本学がはじめて3学部体制となった年でもあった。

教育学部教育学科は予定通りの教育体制で開設することができた。母体となる子ども発達学科に比べて学生・教員ともに大きく増えたが、学部長を中心に学科及び教職支援センターの教職員が協力して活気ある運営が始まっている。本学で本格的に始まった特別支援教育では、授業外においても早速、有志の学生と教員による『ともに生きる』を実現する松蔭プロジェクト：バリアフリーとユニバーサルデザインの視点から考える」が活動を行った。

IT社会のさらなる進展とグローバル化により、日本社会が大きく変化する中、変化に対応できる力の養成が求められている。本学が、学科再編だけでなく教育の抜本的な改革を進めており、高大接続改革に対応するとともに社会変動に対応できる力を要請することを明確に打ち出していく必要がある。それは、中期目標の「学び続けることを可能にする力の養成」を達成することでもある。そこで、教育改革プロジェクトを立ち上げ、今後の本学の教育の在り方について全学共通科目を中心に検討して答申にまとめ、2020年3月に提出した。大学の学びの特徴はゼミ形式の授業であることを再確認し、全学共通科目にゼミ形式の授業・PBL型授業を積極的に配置していくこと、数理統計教育科目を配置していくこと、情報教育の強化とノートPC必携化を進めることなどを提案した。

中期目標の全体目標に掲げた「データに基づく大学運営」については、「神戸松蔭女子学院大学IR (Institutional Research) 室」を2019年4月に設置した。IR室の役割は学修成果、資格取得、就職・進路、受験生・入学生データなどを集約し、活用していくことであるが、まず入学時アンケートと卒業時アンケートについて再検討し、基本的な調査項目を定めた。卒業時アンケートの目的の一つは学修成果の測定であるが、学習成果の測定は様々な方法で行う必要がある。学修支援システム松蔭manaba内で運営するキャリアコース「Shoin キセキ」により、学科の学びの目標とふりかえりレポートの作成もその一つである。2019年度は1年生を中心に実施した。今後も、教務部とIR室が連携して、学習成果の測定を行っていく。

中期目標において、他者との協働や各自が主体的に動きながらもチームで課題解決する経験する場を設けることを重視しているが、2019年度も地域連携、産学連携を多彩に展開し、多くの学生が参加して貴重な学びの機会を得ることができた。クラブ活動においても、学生たちの活躍は目覚ましいものがあった。特に、なぎなた部が全日本学生なぎなた選手権大会で団体優勝し二年連続で学生日本一に輝いたことで、本学学生のチーム力の高さが示された。

2019年度の後期授業を終えて、大きな問題なく2019年度を終えられるものと思っていた2020年2月から、新型コロナウイルス感染症が日本において広がり始めた。3月に予定されていた大学行事は中止を余儀なくされた。特に、学位記授与式の中止により同じ学科で学んだ者同士が別れを惜しむ機会を持たず、私たちから直接はなむけの言葉を贈れなかったことは、誠に残念であった。この感染症は短期間で終息することはなく、入学式を中止して2020年度授業を遠隔授業として開始するという、これまでになかった事態に懸命に対応しているところである。

コロナ禍の学校経営と将来

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井 宣光

県知事が「我が県に来ないでください」と記者会見し、学校の先生が「友達と遊んではいけない」と指導する場面を想像できただろうか。コロナ禍は、学校関係者にも新たな課題を突きつける。今後予測されている急激な景気悪化は、私学経営においては最大の警戒を要すると思う。過去の入試状況を例に、景気悪化が中学受験に与えた影響を確認し、今後の学校づくりの材料としたい。

2008年の国際金融危機、いわゆる「リーマンショック」を考える。国内の実質GDP成長率は、2008年マイナス1.0%、2009年マイナス5.5%と2年連続のマイナス成長であった。中学受験率は10%を切り、松蔭中入試は、2008年度受験者数268名、09年度290名、10年度189名（前年比35%減）を記録した。2年後の入試に大きなダメージとなった。

1995年の阪神淡路大震災。震災後、鉱工業、建設業の「復興特需」の一方で、他業種においては深刻な状況が継続し、アンバランスな復興と言われた。神戸新聞によると、復興指標は震災2年目で56.5%、3年目で70.1%にとどまり、2003年にいたっても「地震発生から数年を経ても景気や経済構造の変化の影響が重く、老舗の廃業も相次ぎ、被災企業の経営は厳しい状況」とある。松蔭中入試結果を振り返る。震災前の1992年度入試は、受験者数656名（うち合格者306）で、本校の「入試バブル」であった。併設大の「入試偏差値」が過去最高となり、「松蔭大へ行くなら中学から松蔭へ」と進学塾が喧伝した。翌年の入試でも495名が受験したが、これはその年までの募集状況が生んだ私学としての「貯金」である。下の学年からの進学塾入塾などで、小6進級後もそのまま受験志向を保ち、受験に至ったものと考えられる。「リーマンショック」後の動向に重なる。問題はその後推移である。96年度入試受験者数を基準とすると、97年度入試は受験者数25%減、98年度27%減、99年度40%減、2000年度43%減と急減する。90年代後半、本校の学校改革は大きく立ち遅れていた。景気動向がダブルパンチとなった。

さかのぼること1929年、米国で始まった世界恐慌は翌年、国内に昭和恐慌を引き起こした。当時の松蔭高等女学校の受験者数は、1932年には前年比受験者数20%減、1935年には42%減と記録にある。いつの時代も景気悪化は、生徒募集状況に長期的影響を与えた。

コロナ禍は、緊急事態宣言の延長で景気動向に暗い影を落とし、感染症そのものの収束見通しも立っていない。1世紀前のスペイン風邪の終息に3年を要した。長期化は間違いない。公共交通機関を利用する遠距離通学も、保護者としては不安材料である。今回ばかりは、次年度入試へのストレートなダメージを予測しなければならないだろう。

「では、どうするか？」今年度から導入した新課程「ストリーム制」による松蔭教育に、一層の付加価値が求められる。不況下でも、コロナ禍にあっても、松蔭で学ぶことが教育投資に見合うと保護者が判断することを期待し、以下を方策として具体化したい。

(1) 学力もICTスキル・モラルも習得する学校づくり。

長期休校により、各校は様々な形態のオンライン在宅学習をすすめようとしているが、環境整備や実際の運用面での難しさに直面している。一方、各大学は着実にリアルタイムの

オンライン講義を実現しているが、これを本校でも実施できるようにする。学力向上に併せて ICT スキル・モラルの向上をはかることは、大学入学前教育としても適切であり、公立校に先んじて実施することは私学の特色教育となる。

- (2) 効果的な英語学習に加え、英語を通じた幅広い学びがある学校づくり。

より効果的な語学教育手法を導入し、特に理数系科目での英語イマージョン教育を推進する。少子化の時代、より幅広い分野の志向に対応できることは、募集対策の要である。私学としての特色づくりは、他私学と競合する際のポイントとなる。

- (3) 「グローバル『市民』教育」が行われる学校づくり。

コロナ禍は世界普遍である。恐れ、悲しみ、不能不全感は人類共通である。国際交流と語学習得、現地体験による異文化理解を主とする従来の「グローバル教育」にとどまらず、スクールモットー“Open Heart,Open Mind”の精神を活かし、人間同士の真の相互理解の精神に立つ、「グローバル『市民』教育」を標榜する。保護者は子どもに、豊かな人間性の育成を求める。本校のミッションステートメントで触れている、「国内外のどこでも生き抜く、勇気と知恵を備えた」グローバル「市民」を育てる。

私たちは立ち止まってはいけない。平時にあっても同様だが、ただ今は「窮すれば通ず」とばかり、チャレンジ精神をもって次のステップに進みたい。

I 法人の概要

1. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和 26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

2. 学校法人の沿革

明治 25 年 1 月	英国聖公会 S.P.G.より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立
明治 32 年 12 月	文部省より私立学校令による設立認可
明治 44 年 5 月	文部省より専門学校入学者検定第 8 条第 1 号による指定を受ける
大正 4 年 4 月	私立松蔭高等女学校に改称
大正 11 年 3 月	私立松蔭高等女学校財団法人設立
昭和 5 年 4 月	専攻科設置(修業年限 1 年)
昭和 22 年 3 月	松蔭女子専門学校設立認可
昭和 22 年 4 月	学校教育法により松蔭中学校設置
昭和 23 年 4 月	学校教育法により松蔭高等学校設置
昭和 25 年 3 月	松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置
昭和 26 年 3 月	学校法人松蔭女子学院寄附行為認可
昭和 28 年 4 月	短期大学に服飾科増設
昭和 35 年 4 月	短期大学に家政科増設
昭和 37 年 4 月	短期大学に日本文学科増設
昭和 41 年 4 月	松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
昭和 44 年 4 月	短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
昭和 49 年 4 月	松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
昭和 55 年 4 月	六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転 大学キリスト教学科廃科
昭和 56 年 4 月	六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
昭和 56 年 9 月	六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
昭和 61 年 4 月	短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
昭和 61 年 4 月	短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
平成 3 年 4 月	短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
平成 4 年 4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
平成 4 年 9 月	学院創立 100 周年
平成 7 年 4 月	大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更

- 平成 12 年 4 月 大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置
大学文学部に総合文芸学科設置
短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止)
短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
- 平成 13 年 4 月 大学文学部に心理学科設置
- 平成 14 年 4 月 大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
- 平成 16 年 4 月 大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置
大学に人間科学部心理学科設置
大学文学部心理学科学生募集停止
- 平成 17 年 4 月 大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置
短期大学生生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止
神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更
大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
- 平成 19 年 大学 60 周年記念事業実施
- 平成 19 年 9 月 短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
- 平成 20 年 4 月 大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置
大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更
短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
- 平成 21 年 4 月 大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される
- 平成 22 年 4 月 大学 文学部心理学科を廃止
(財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 23 年 4 月 文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止
文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更
文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置
- 5 月 神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止
- 平成 24 年 学院創立 120 周年記念事業実施
- 平成 27 年 4 月 認定こども園松蔭おかもと保育園開園(系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会)
- 平成 28 年 4 月 (財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 29 年 3 月 文学部英語英米文学科、国文学科を廃止
- 4 月 人間科学部生活学科学生募集停止
人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置
- 平成 31 年 4 月 教育学部教育学科を設置
人間科学部子ども発達学科学生募集停止
文学部英語学科の収容定員変更
文学部総合文芸学科の学生募集停止

3. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1) 神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学研究科	博士課程	言語科学専攻	2人
	修士課程	英語学専攻	5人
		国語国文学専攻	5人
		心理学専攻	10人
		合計	22人

(2) 神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学部	英語学科	英語学科	100人
		英語プロフェッショナル専修	
		グローバルコミュニケーション専修	
		日本語日本文化学科	60人
		小計	160人
人間科学部	心理学科	心理学科	70人
		都市生活学科	100人
		都市生活専修	
		食ビジネス専修	
		食物栄養学科	60人
		ファッション・ハウジングデザイン学科	60人
		小計	290人
教育学部	教育学科	教育学科	120人
		幼児教育専修	
		学校教育専修	
		小計	120人
		合計	570人

(3) 松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

全日制課程普通科 350人

(4) 松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

315人

4. 役員（理事・監事）に関する事項

(1) 理 事

定数：11人以上16人以内	現員：13人
理 事 長	中 村 豊
常務理事	郡 司 隆 男 (院長)
〃	待 田 昌 二 (学長)
〃	浅 井 宣 光 (校長)
〃	永 井 良 昭 (法人事務局長)
〃	芳 田 克 巳
〃	番 場 靖 子
〃	竹 田 美 知
〃	竹 中 康 之
〃	上 野 智 子
〃	澤 田 知 之
理 事	川 崎 紘 平
〃	吉 村 厚 子

(2) 監 事

定数：2人以上4人以内	現員：2人
監 事	田 嶋 紀 雄
〃	山 口 純

5. 評議員に関する事項

定数：23人以上37人以内 現員：29人

6. 教職員に関する事項

(1) 教 員

	(専 任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	28人	—	72人
大学 人間科学部	51人	—	123人
教育学部	11人	—	36
高等 学校	29人	3人	15人
中 学 校	21人	2人	8人
計	140人	5人	254人

(2018年5月1日現在)

(2) 職 員

	(専 任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(*8人)	—	—
大 学	72人	32人	19人
高等学校	4人	3人	0人
中 学 校	4人	3人	0人
計	88人	38人	19人

*法人本部職員は、大学、高等学校の専任職員が兼務 (2019年5月1日現在)

7. 校地・校舎等面積

(1)校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キャンパス	60,461.43
野 外 訓 練 場	16,049.00
松 蔭 大 学 会 館	1,899.35
大 山 ロ ッ ジ	32,853.00
青 谷 キャンパス	17,997.16
赤 倉 寮	9,088.00
千 と 勢 会 館	795.46
合 計	139,143.40

(2)校舎等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六 甲 キャンパス	34,266.26
松 蔭 大 学 会 館	5,064.71
大 山 ロ ッ ジ	686.26
青 谷 キャンパス	21,975.89
赤 倉 寮	995.76
千 と 勢 会 館	936.09
合 計	63,924.97

II 事業の概要

1. 法人

(1) 理事会、評議員会、常務理事会関係

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会:4回開催、評議員会:4回開催、常務理事会:13回開催)

【理事会】

- ① 日 時 令和元年5月31日(金) 午後4時45分～6時
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 評議員の重任の件
第2号議案 決算の件
第3号議案 事業報告の件
- ② 日 時 令和元年8月9日(金) 午後2時～2時30分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室
議 案
第1号議案 次期中学校・高等学校校長選任の件
第2号議案 次期大学学長選任の件
- ③ 日 時 令和元年12月20日(金) 午後6時10分～6時40分
場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 寄附行為変更の件

第2号議案 役員報酬規程の件

④ 日 時 令和2年3月27日(金) 午後4時30分～5時、午後6時～6時40分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 理事長人事の件 資料1

第2号議案 院長人事の件 資料2

第3号議案 法人事務局長人事の件 資料3

第4号議案 松蔭中学校・高等学校副校長選任の件 資料4

第5号議案 評議員の退任・辞任・重任・就任の件 資料5

第6号議案 理事の退任・重任・就任の件 資料6

第7号議案 常務理事の退任・重任・就任の件 資料7

第8号議案 監事の退任・就任の件 資料8

第9号議案 大学学則変更の件 資料9

第10号議案 大学院学則変更の件 資料10

第11号議案 高等学校校則変更の件 資料11

第12号議案 令和2年度事業計画の件 資料12

第13号議案 令和2年度予算の件 資料13

【評議員会】

① 日 時 令和元年5月31日(金) 午後6時10分～6時50分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 評議員の重任の件

② 日 時 令和元年8月9日(金) 午後2時～2時45分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 次期中学校・高等学校校長選任の件

③ 日 時 令和元年12月20日(金) 午後5時～6時

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 寄附行為変更の件

第2号議案 役員報酬規程の件

⑤ 日 時 令和2年3月27日(金) 午後5時5分～6時

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 監事の退任・就任の件 資料1

第2号議案	大学学則変更の件	資料 2
第3号議案	大学院学則変更の件	資料 3
第4号議案	高等学校校則変更の件	資料 4
第5号議案	令和 2 年度事業計画の件	資料 5
第6号議案	令和 2 年度予算の件	資料 6

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月 1 回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

(議決事項)

1. 教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
2. 職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
3. 予算の執行に関する事項
4. 全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
5. その他理事会から特に委任された事項

(審議事項)

1. 理事会に提案する事項
2. 建設計画に関する事項
3. 教職員組合との協定に関する事項
4. その他理事会から特に付託された事項

(2) 財務関係（予算編成の基本的方針等）

教育研究費の充実や教育環境整備を計画的に推進していく上で帰属収支均衡を目指した予算編成を基本方針としている。

近年は大学における在籍者数が増加に転じたことで収入は漸増傾向にあるが、人件費、教育研究経費並びに管理経費も増加しており、収支改善への取り組みを継続していく。

また老朽化した施設・設備の更改に加え、I C T を活用した教育環境整備が求められる状況にあって、一律に抑制的な予算編成ではなく費用対効果を勘案したメリハリの利いた投資への予算配分を検討・実行していくことが必要である。

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅 井 宣 光
副 校 長	番 場 靖 子
副 校 長	芳 田 克 巳
教 務 部 長	大 槻 泰 史
宗 教 部 長	赤 尾 友 規
生 徒 部 長	中 川 雅 博
総 務 部 長	若 木 浩 幸
進路指導部長	佐々木 聡
入試広報室部長	小 林 裕 典
入試広報室副部長	澤 田 知 之
事 務 長	平 田 健 二
事 務 次 長	岡 田 知 子

(2) 学校改革の進捗状況と方向性、教職員の働き方

私立学校の学校改革は、教育課程など教育活動の諸制度と運用の仕方の改革と、教職員の学校運営や経営へ関わり方の改革が軸である。さらに労働法規に抵触することなく教育労働の枠組みをつくり、併せて熱意をもって教育活動に従事できるよう配慮し、「働き方改革」に取り組むことなど、改革すべきことは多岐にわたる。

学校教育活動の改革については、全学教育構想委員会が担当し、下部組織として6日制活動小委員会、カリキュラム小委員会、ICT小委員会を運営した。

学校運営、経営については、2018年度、法人に設置された「将来構想諮問委員会」の答申にもとづき、管理職の選出規程（校長、副校長選出規程）の改定を行った。学校運営、経営の責任者としての校長職について、学校内外から広く選任できるようにしたほか、副校長選出を従来の教員による選挙制度を廃し、校長が指名することとした。これにより、執行部が一体となって学校改革にあたることのできる体制となった。また、職員会議議長についても、校長による任命制とした。

働き方改革については、教員の1年単位の変形労働時間制を導入して2年目に入り、これが定着してきた。しかし、長時間の時間外労働が一部の教員に確認され、管理職による職務の遂行状況を聴取するなどの対応を行った。また、労働基準法の改正により有給休暇取得が義務化されたが、各教職員への周知を確実にした。

(3) 職員会議、その他の委員会等の開催状況

全教員（専任教諭、常勤講師）による職員会議として、毎月1回の定例会議および学期始めと学期末に報告のための会議をもった。また、各学期末には成績会議を開催し、3学期末には学年の修了・進級認定並びに中学校卒業認定を行った。他の主要会議として、日常の学校運営に関する事項を討議、決定する校務部長・学年主任合同会議（校長、副校長、教務部長、宗教部長、生徒部長、総務部長、6学年主任）を月2回開催したほか、教科主任会議（月1回）、各校務部会（月1回）、教科会議（月1回）を定例の会議とした。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営に関する概要を立案した。全学教育構想委員会ならびに各小委員会も定期的に開催した。

(4) 2019年度の学校運営方針

次の5項目を学校運営方針とした。さらに「指導の重点」および「教員申し合わせ事項」をガイドラインとして定め、全教員で共通理解を持つこととした。

- ① 学院モットー「一粒のからし種」、中高スクールモットー“Open Heart, Open Mind”（心を開いて、思いを自由にして）の理念を、日々の教育実践に生かす。
- ② 生徒・保護者の安心・安全を絶対のものとして確保する。
- ③ 学校全体で、ICTリテラシーを高めると共に、生徒・教職員・保護者の情報モラルの確立をはかる。
- ④ 講義形式のみの授業形態から、主体的、対話的で、深い学びのある授業への転換をはかる。
- ⑤ プロジェクト型学習、課題解決型学習の手法を、授業・行事その他の取り組みに導入し、その実践をキャリア教育に生かす。

(5) 新型コロナウイルス感染症による学校教育活動への影響

2020年2月27日、春休みまでの全国の学校休校措置について政府から発表があった。本校も3月2日より3月末日まで、式典、登校日のHRを除いて全ての学校活動を中止し、臨時休校とした。高校卒業式、中学校卒業式とも来賓や在校生の出席をとりやめ、卒業生と保護者のみの参加とし、時間短縮と簡略化を図り実施した。終業式は登校日の形態で実施し、学年ごとの時差登校でホームルームのみとした。学年末考査が中止となったため、学習成績の評価は休校前の資料にもとづいて行った。春休みに予定されていた海外研修など生徒派遣プログラム（モナコ、ニュージーランド）も中止した。なお3月に入り、県内および神戸市内でも感染者が出始めたが生徒、教職員に罹患者はなかった。

(6) 教学関係

① 各学年の活動

今年度運営方針をもとに、中学、高校で各学年ごとに学年目標を設定し、学習、生活面の指導をすすめた。

中学1年は、学年目標を、聖書の一節「あなたの心を諭しの言葉に、耳を知識の言葉に傾けよ」（箴言23:12）とした。SNSによる個人からの社会発信が一般的になる時代に、情報を入力し、判断する力の育成は必須である。毎朝の手帳記入による生活、学習両面の自己管理を行ったほか、学習面では学期間や長期休業中に各自の学力に応じた学習指導をすすめた。オンライン英会話や水泳講座も企画し、幅広い学習機会を提供して意欲喚起をはかった。また、総合学習の時間には小笠原流礼法によるマナー学習を通年で実施するとともに、相談室カウンセラー（公認心理師）を講師として、人間関係構築についてのガイダンスプログラムを行った。

中学2年は、学年目標を、中1次から引き続き「自他を大切に」とするとともに、中だるみしがちな学習姿勢を確認するため、「授業を大切に」を加えて2項目とした。毎朝の手帳記入に加え、各授業においても学習メモを取ることを徹底した。課外講座には学年独自の「英語教室」や「理科実験教室」等も実施し、学習意欲の喚起をはかった。保健体育では、「アーティスティックスイミング」、「なぎなた」授業を実施し、学習の幅を広げた。クラス対抗の聖歌コンクールは、聖歌に親しむことだけでなくクラスの一体化にも好影響を及ぼした。総合学習の時間は、「命」を年間テーマとし、乳幼児と母親との交流から学ぶ「赤ちゃん先生」

プログラムや、ダウン症児の親子と交流会を持ち、命の誕生、成長、出生前診断や障害などについて考える時間をもった。

中学3年は、学年目標を、前年度の「人はそれぞれの歌を持つ」「学校は間違ふところ」を継続し、さらに「ばらけている、束ねられるな」を加えた。思春期の精神的な不安定さがピークを迎える学齢において、個の自立を促すねらいがある。学習については、学年当初に実施した「全国学力・学習状況調査」受験と、松蔭高等学校入試にあたる「基礎学力判定試験」の受験を柱として学習指導を行った。総合学習においては「平和」をテーマとし、中東地域を中心に活動するジャーナリスト、市内に残る戦争遺跡をまとめた「神戸平和マップ」の作成者、被爆者の方等の講演会を開催したほか、修学旅行訪問地長崎で、平和学習をすすめた。中2次テーマ「いのち」の観点を、中3のテーマ「平和」に落とし込むこと、さらに、高校進学後に実施する「進路について考える生き方」学習につなげることを意識した。

高校1年の学年目標は、聖書の一節から「求めよ さらば与えられん。Ask, and it shall be given to you.」とした。朝礼前の「学びの時」から1日の学校生活を始め、各自の学習課題に取り組めるよう指導した。土曜日3校時の課題学習の時間でオンライン英会話を実施するなど、各教科内外で高校段階の学びをすすめた。学年独自のプログラムとして、冬季野外活動（スキー実習）を、兵庫県ハチ高原においてで2泊3日で実施した。総合的な探究の時間は「キャリア」「進路」をテーマとし、「持続可能な人生を考えよう」を合言葉に学習をすすめた。

高校2年は、学年目標を「愛」とした。神様が私たち一人ひとりを愛していることを覚え、自分も自分の周りの人も信じ、少しずつ自分を高める努力を続け、賢く生きる女性となることを目標とした。学習については、授業を通じた学習と、授業以外で入試対策となる学習の両方に取り組むことができるようにした。朝礼前の「学びのとき」は、各検定対策や天声人語の書写に取り組んだ。また、長期休業中の進学補習のほか、校内予備校など課外講座、英検対策も実施した。修学旅行は、帰路の航空便が機材故障により機着地変更のうえ大幅な延着となったが、年度初めより積み重ねてきた総合的な探究のテーマ「震災学習」の仕上げの機会となった。総合的な探究では進路学習もテーマとし、各自が進路について研究を深めた。

高校3年は、「怒～思いやり豊かな人になる～」「志学・志向・タリタクム～歩き続けよ、いざ、羽ばたかん！～」を学年目標として掲げた。学習、進路指導では、実力試験や小論文模試を実施したほか、進学補習を行うとともに、大学別の進路説明会や各分野ガイダンス、併設大学の学科説明会を開催した。授業がない3学期については、国公立大や私大一般入試の受験者は「進学講習」を、その他の生徒は「Blue Earth Project」「探究レポートプログラム」「SDGs ワークショップ」から選択し、取り組んだ。その他には、「世界史勉強会」「TOEIC・TOEFL 講座」「ゴルフ体験」「司書体験」など各講座も開講した。

② 英語教育

フルタイム勤務のネイティブ教員を、前年度の2名から4名体制（うち3名は英語科免許保有）とした。中1～高1までの各学年に1名ずつ配置し、中学オーラル授業は、10名以下の少人数で実施した。また、ネイティブ教員は高校授業も担当し、英語のみの教科指導を行った。さらに、4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上をはかるため、ICTデバイスを利用したスピーキングや、外国人とのオンライン英会話を実施した。課外講座（英検対策講座）も開講し、英検受験を全員に課した。中3、高1の英語特別クラス生徒については、それぞれの学年修了時には全員が中3で準2級、高1で2級取得を目標とした。全校としての目標を、高校卒業までの英検2級取得とした。中学3年と高校生にはGTEC受験も課した。英語特別

クラス（中3、高1）では、ネイティブ教員が副担任となり、日常生活でも英語に触れ続けることができるようにした。なお、オンライン英会話は、中学生においても長期休業中の補習に組み入れた。

インターナショナルスクールである聖ミカエル国際学校の土曜学校スクールアシスタントは、他校にはない特色プログラムである。英検 2 級以上の取得を資格として、毎学期学年別に 3～4 名の高校生が参加した。

なお、中学入試で英語入試（英語 1 科目入試）導入後 3 年目となったが、2020 年度中学入学生より DS、GS の 2 ストリーム制導入に伴い、英語入試の難易度を上げるとともに、英語面接を実施した。English Room には、昼休みおよび放課後にネイティブ教員やスタッフ（タンザニア出身、韓国出身）が在室し、気軽に英会話を楽しむスペースであると同時に異文化交流の場にもなった。また、中学 2 年生の希望者を対象に、福島県の英語村 “British Hills” での 2 泊 3 日の夏期英語研修を実施した。下表は、英検取得者数の推移である。在籍生徒数は 2015 年度比 30% 減となっているにもかかわらず、特に高校での 2 級合格者が増加している。英語力定着の目安としてご覧いただきたい。課題としては、中学生の伸びが少ないことである。ストリーム制導入で回復することを期待したい。

年度	在籍生徒数	中学のみ		中学・高校		
		準 2 級	2 級	2 級	準 1 級	1 級
2015 年度	中学 408 名 高校 527 名	37	6	66	0	0
2016 年度	中学 394 名 高校 499 名	48	6	86	4	0
2017 年度	中学 364 名 高校 418 名	59	9	97	5	0
2018 年度	中学 309 名 高校 403 名	42	7	117	5	1
2019 年度	中学 276 名 高校 395 名	33	3	121	6	1

③ 国際交流とグローバル教育

ニュージーランドの姉妹校セントピーターズ校との交流では、春季交換留学生として高校 1 年生 2 名が、3 週間にわたり現地に滞在した。その後、2 名のセントピーターズ生が来日し、本校での学校生活を体験した。また、セントピーターズ校からの訪問団を隔年で受け入れているが、今年は 15 名の生徒が来校し、本校生宅での 3 泊 4 日のホームステイを体験した。また、夏休みには、海外短期語学留学生として 12 名の高 1 生が現地生活を送った。

韓国の姉妹校信明高校、聖明女子中学校への派遣は、出発 3 週前の時点で、先方校長より中止したい旨の連絡を受けた。韓国各地での反日運動の影響で、本校生が万一の事態に遭遇することを心配しているとのことであった。校内で協議した結果、派遣を中止した。また、秋に予定していた、聖明女子中学校訪問団の来校も先方より中止するとの連絡があった。その後の動向を注視していたが、1 月には信明高校生 10 名が来校し、生徒交流を実施した。交流 10 年目となる節目の年にあたり、両校間では、生徒交流の重要性和、姉妹校関係の継続を確認した。

冬休みには、フィリピン・セブ島研修を実施し、中 3 から高 3 まで 20 名の生徒が参加した。この研修は英語集中研修のほか、社会体験として現地スタッフとともにスラム街の見学や家庭訪問を行った。帰国後には様々なアクションプランを含めたレポートを作成し、単なる語学研修、異文化研修とは異なる有意義なプログラムとなった。

④ リーダーシップを育み、主体的に生きる姿勢を育むプロジェクト型学習

高校生の Blue Earth Project は、環境問題をテーマとした PBL（課題解決学習）、プロジェクト型学習の一環としての活動である。高校 1、2 年生は、各学年のオリエンテーションの後、希望者が「チーム Y」を結成し、「STOP！温暖化」「COOL CHOICE」をアピールするための活動を開始した。

8 月 25 日、本校を会場に全国大会「Blue Earth Project 全国活動報告会 2019 in 神戸」を開催した。沖縄・大阪・富山・箱根・横浜・北海道の各地域から 118 名の女子高生が集まり、活動報告会と啓発イベントを開催した。本校の高校生、OG も主催者側スタッフとして参加した。

高校 1 年チーム Y は、東京湾大感謝祭 2019（2019 年 10 月 26 日～27 日、横浜みなとみらい地区赤レンガ倉庫）に参加し、ブースでの啓発活動やステージでのアピール活動を行った。また、高校 2 年チーム Y は、「美ら海から考え発信する SDGs」を掲げ、NPO 法人 Blue Earth Project（松蔭高等学校在学時 Blue Earth Project 活動を行った女子大生 11 名）とともに沖縄のショッピングモールやホテルで啓発活動を行った。

これら高 1、高 2 の活動を受けて、高校 3 年生は、進路が確定している生徒のなかから希望者が活動した。国連広報センターと国連開発計画の協力の下、SDGs をテーマに「MY WORLD 2030」の推進をはかり、神戸ハーバーランド UMIE、西宮ガーデンズで啓発イベントを行った。なお、前年度末の春休みには、高 1 生徒 3 名がヨーロッパ、モナコを訪問し、現地高校生と交流したが、2019 年 4 月には、環境省で関係者を対象に活動報告を行った。

⑤ 補習および課外講座など

放課後の課外講座は、月曜日は校内予備校（高校生対象）および中学各学年の校内塾「放課後アドバンス塾」、水曜日は上述の英検対策講座、土曜日は校内予備校（高校生対象）を開講した。夏期休業中の補習については、前半と後半の 1 週間ずつを補習期間として設定し、高校生対象の進学補習、中学生対象の補習を実施した。なお、中学生は、定期考査の成績未到達者を対象とした、補い学習も実施した。オンライン学習サービス「スタディーサプリ」については、中学高校ともに希望する生徒が利用した。

⑥ 行事や特色あるプログラム

例年、1 学期には六甲山系への登山を中心とした遠足を実施しているが、即位礼に伴う連休があり、2019 年度は中止した。

宿泊行事としては、中学 1 年の山のキャンプ（兵庫ハチ高原民宿）、中学 2 年の海洋キャンプ（徳島県阿南市 YMCA 阿南海洋センター）、中学 3 年および高校 2 年の修学旅行を実施した。中学 3 年の修学旅行では、訪問先を北九州とし、総合的な学習のテーマである平和学習や班別研修を長崎で実施した。また、有田焼の陶芸プログラムも加え、北九州の自然、歴史、文化を学ぶ研修旅行とした。高校 2 年の修学旅行は北東北方面とし、津波により大きな被害を受けた田老を視察し、被災者の講演を聴いた。修学旅行と同時期には他学年のバス利用の校外学習も実施し、中学 1 年は丹波篠山、中学 2 年は淡路島、高校 1 年は鳴門市の大塚国際美術館を訪問した。冬休みの希望者による戸隠スキーキャンプは、参加希望者が少ないため中止した。

生徒会行事として、生徒の自主的な運営のもとで文化祭、球技大会、体育祭を行った。全校生で芸術を楽しむ団体鑑賞（全校芸術鑑賞会）は、本校講堂でプロの落語家による「時うどん」「饅頭こわい」など古典落語を鑑賞した。

中学生は、各学年ごとの百人一首大会を開催した。また、兵庫県後援の「ピッコロ・わく

わくステージ」の演劇鑑賞も実施した。中学 2 年生の特色授業（「シンクロナイズドスイミング」「なぎなた」前述のとおり）、中学 1 年の OSK 歌劇団員によるダンス特別授業も行った。放課後や長期休暇中には、希望者を対象に理科実験教室、カエルの解剖や星空観察合宿などを実施した。中学英語スピーチ・レシテーションコンテストを企画していたが、新型コロナウイルス感染症による休校で中止となった。

⑦ 学校生活意欲と学級満足度調査

本校独自の「学校生活アンケート」を定期的実施し、学校適応感や、いじめなどのトラブルに関する生徒の主観的な判断を把握するよう努めた。結果については、生徒個人面談等に有効利用できた。いじめ事案が確認された学年においては、臨時のアンケートも実施し、事実把握や生徒ケア、問題解決に努めた。

⑧ 特別支援教育、人権教育

特別支援教育委員会を運営し、特別なニーズがある生徒に対する支援内容について検討した。個々に応じた指導が実施できるよう、個別の指導計画について情報共有できるシステムを構築した。また、発達障害の特性を持つ生徒について、ソーシャルスキルトレーニングを実施する個別指導教室を開講し、中学生 2 名を対象に実施した。並行して認知訓練の教材を使用した特別支援教室（芦塚教室）も運営し、幅広く生徒支援が可能となった。

人権教育については、近年、社会問題として様々な機会に提起されるようになった「性同一性障害」「LGBT」について取り組む 1 年となった。まず、性同一性障害の当事者として活動する、清水展人氏を講師として教職員研修を実施し、その後、同氏を全校生徒対象の人権教育講演会の講師として招聘した。また、秋の特別礼拝では、聖公会中部教区より後藤香織司祭を説教者に依頼し、同性愛、性同一性障害などのセクシュアル・マイノリティの解放に研修した。

⑨ 2019 年度中学入学生数、高校入学生数

2019 年 4 月 6 日午前、99 名の中学新入生を迎えて中学校入学式を、午後には 15 名の高校入学生を迎えて高等学校入学祝福式を挙行し、それぞれ新入生代表が宣誓を行った。また、後日、神戸聖ミカエル教会において入学感謝礼拝を行い、中学、高校の新入生、保護者が出席した。

⑩ 2019 年度卒業生数

2020 年 1 月 29 日の高等学校卒業判定会議において、2019 年度高校 3 年生（H72 回生）120 名の卒業が認定され、3 月 2 日、第 72 回高等学校卒業式を挙行した。新型コロナウイルス感染症の予防措置として、来賓や在校生、聖歌隊、ベルクワイヤーは参加せず、卒業生と保護者のみで時間短縮して実施した。なお、これに先立って卒業生は、神戸聖ミカエル教会で卒業感謝礼拝を行った。尚、中学については、3 月 19 日、中学校卒業式（第 73 回）を挙行した。これも生徒と保護者のみの出席で簡略化して挙行した。

(7) 学校の ICT 化と WIFI 環境整備

前年度までに各教室への電子黒板の整備と WIFI 導入、生徒貸出用タブレット導入などを実現していたが、2019 年度には高校 1 年生及び 2 年生に Saas「Classi」を導入した。ただし、一部機能の運用のみとし、生徒アカウントのみで保護者は利用できないことなど部分的な利用にとどまった。さらなる学校 ICT 化推進のため、教務部や総務部情報機器係など関連部署担当者により「タブレット個人保有についての協議」を行い、2020 年度より、中 1 と高 1 のタブレット個人保有、上記 Classi を高校全学年と中 1 で本格的に運用する準備を行った。新型コロ

ナウイルス感染症の影響による休校が新学年でも継続した場合には、有効な在宅オンライン学習のツールとなる。

学術情報ネットワーク「SINET」は、全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、国立情報学研究所(NII)が構築、運用している情報通信ネットワークだが、併設大学の協力を得て中高でも導入した。2020年1月、文部科学省は、公立学校の「GIGA スクール構想(各学校で、児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するパッケージ施策)」を発表した。学校ICT化は喫緊の課題である。

なお、教員にはタブレットを貸し出し、授業で利用できるようにしているほか、2019年度より教員の諸会議では、ペーパーレスによる開催することとしている。これにより、紙ベースの会議資料を配布していた前年度と比較して、用紙発注額ベースで20万円程度の圧縮(減額)を実現した。

(8) 課外活動

指導力強化のため、特別コーチ2名(ハンドベル部、卓球部)を増員した。

① 運動部 8部

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、ソフトボール部、卓球部、テニス部、バスケットボール部、バドミントン部

② 文化部 11部-18部門

アート部(写真・美術・マンガ研究)、演劇部、器楽・弦楽部(マンドリン・バイオリンアンサンブル)、コーラス部、食物部、箏曲部、ダンス部(バレエ研究・モダンダンス)、伝統文化部(華道・茶道・書道)、ハンドベル部、バンド部(軽音楽・フォークソング)、放送部
【同好会4部】ESS、少林寺拳法、バレーボール部、陸上

③ 全国大会に出場した部活動

・アーチェリー部

(全国選抜大会(中止)、全日本小学生・中学生アーチェリー選手権大会)

・放送部(NHK全国放送コンテスト・・・高校・中学)

④ 全国大会に出場した個人の活動

・馬術(第74回国民体育大会(茨城国体))

・アーティスティックスイミング(全国JOCジュニアオリンピックカップ)

(9) キリスト教主義教育

① 全校礼拝について

中学、高校で週一回の「朝の全校礼拝」を行っている。礼拝の講話は、チャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年の教員も参加し、自らの思いを言葉にして生徒へ語りかけた。聖歌を皆で声を合わせ、大きな声で歌うことも祈りの一つとし、中学の「聖歌コンクール」も実施している。松蔭での礼拝は、生徒にとってより身近なものになってきているようである。有志の教職員と生徒による「早朝礼拝」、毎週金曜日昼休みの「ヌーンサービス」もレオノラチャペルで行われた。月一回、「ヌーンサービス」時に行っている「お誕生日礼拝」は、該当者に案内を兼ねたお誕生日の案内には、「お誕生日カード」を送るとともに、図書館の協力により「あなたへのお勧め図書紹介」も同封して送っている。毎月多数の生徒が出席した。

4月20日「入学感謝礼拝」(神戸聖ミカエル教会) 説教 神戸教区小林尚明主教

4月25日「イースター礼拝」 説教 神戸松蔭女子学院大学瀬山会治チャプレン

- 6月6日「春の宗教週間 特別礼拝」 講話 文屋範奈（ゴスペルシンガー）
- 11月14日「秋の宗教週間 特別礼拝 説教 中部教区後藤香織司祭
- 11月16日「逝去者記念礼拝」
- 12月19日「クリスマス礼拝」 説教 神戸松蔭女子学院大学瀬山会治チャプレン
「クリスマス祝会」（ハンドベル部、バイオリンアンサンブル部、コーラス部、
フォークソング部出演し。司会担当放送部。）
- 1月17日「震災記念礼拝」（講堂）、「震災記念の祈り」（チャペル、モーヴの広場）
- 2月28日「卒業感謝礼拝」（神戸聖ミカエル教会）

② その他活動

○1 学期宗教週間 6/6(木)～12日(水)

- 「教会へ行こう」6月2日(日)：聖ミカエル教会、9日(日)：聖ヨハネ教会
- 「映画会」6月6日(木) 放課後・レオラチャペルにて『俺たちは天使じゃない』上映。
- 「聖書に親しむ会」6月7日(金) 放課後・レオラチャペルにて
- 「手作りしよう」6月8日(土) 放課後・レオラチャペルにて “クルミろうそく” 等製作。
- 「布の裁断ボランティア」6月10日(月) 放課後・レオラチャペルにて
- 「にじ作業所・パン販売」 6月12日中学生 6月19日高校生
- 「バイオリンアンサンブル部・チャペルコンサート」6月12日
- 「おしり拭き布とビニール袋の回収」（特別養護老人ホームのきしろ荘からの依頼）
- 「チャリティーブック・バザー」（図書館共催）

○2 学期宗教週間 11/11(月)～11/16(土)

- 「神戸聖ミカエル教会・バザー」11月4日(月)
- 「神戸聖ヨハネ教会・バザー」11月10日(日)
- 「クリスマスツリー作り」11月11日(月)放課後・レオラチャペルにて
- 「映画会」11月12日(火)放課後・レオラチャペルにて『タイタンズを忘れない』
- 「クリスマスツリー作り②」11月13日(水)放課後・レオラチャペルにて
- 「各クラス講話」11月5日(火)～11月20日(水) 近隣の各教会牧師の講話
- 「おしり拭き布とビニール袋の回収」（特別養護老人ホームのきしろ荘依頼）
- 「チャリティーブック・バザー」（図書館との共催による雑誌の提供）

○特別養護老人ホームきしろ荘での奉仕活動

- 喫茶ボランティア 7月20日(土)
- クリスマス飾り付け 12月7日(土)

○児童養護施設真生塾・真生乳児院「育児体験」

- 1学期、2学期土曜日午後、実施

○被災地支援イベント

- 「オープンスクール」 7月13日(土) チャリティ売店

○広島平和礼拝（8月5日～6日）参加

- 神戸教区主催「平和礼拝」に中高生10名が参加。「核廃絶の署名運動」協力、「平和行進」参加。「被爆者講演会」参加。

○オルガンレッスン

- 生徒5名受講。各行事での奏楽奉仕。

(10) 生徒募集対策・入試関係

① 入試説明会実施状況

- 4月 7日(日) 新聞社主催 私立中学受験フェスティバル(グランフロント大阪)
- 4月13日(土) 芦研 私立中学入試説明会(芦屋ルナホール)
- 4月14日(日) ストリーム制説明会(校内)
- 4月14日(日) 新聞社主催 私立中高入試報告会(私学会館)
- 4月27日(土) 文化祭で個別相談を実施(校内)
- 5月11日(土) **Global Stream** 説明会(校内)
- 5月11日(土) 新聞社主催 私立中高進学相談会(西宮フレンテホール)
- 5月26日(日) 新聞社主催 私立中高進学相談会(芦屋ラポルテホール)
- 5月29日(水) 公文 教育情報講座(公文 西宮事務局)
- 5月30日(木) 日能研主催 学校見学会(校内)
- 6月 2日(日) 英検本会場 個別相談(校内)
- 6月 8日(土) 創学アカデミー 学校見学会(校内)
- 6月 9日(日) 芦研模試会場・入試結果報告会(校内)
- 6月22日(土) 授業見学会(校内)
- 6月26日(水) アップ教育 私立中学の今を知ろう 松蔭説明会(西宮ガーデンズ)
- 6月30日(日) 英検本会場 個別相談(校内)
- 7月 6日(土) 新聞社主催 私立中学高校進学サポートフェア(西宮フレンテホール)
- 7月 8日(月) ECCホームティーチャー先生方対象の説明会(校内)
- 7月13日(土) オープンスクール(校内)
- 7月14日(日) 女子教育セッション<愛徳・小林聖心・甲子園・甲南女子・神戸海星・
神戸国際・神戸女学院・神戸山手・親和・園田・武庫川・百合・
賢明女子・松蔭> (神戸三宮東急REIホテル)
- 7月21日(日) 新聞社主催 播磨リビング私立中高進学相談会(加古川プラザホテル)
- 7月25日(木) 海外子女教育振興財団主催 帰国生のための学校説明会・相談会
(グランキューブ大阪)
- 8月 4日(日) 私学連合会主催「兵庫私学フェスティバル 西宮会場」
(ホテルヒューイット甲子園)
- 8月17日(土) 18日(日) 私学連合会主催 私学フェスティバル 神戸会場
(ホテルクラウンパレス神戸)
- 9月 7日(土) 第1回 高校説明会・見学会(校内)
- 9月 7日(土) 明光義塾 兵庫進学相談会(神戸サンボーホール)
- 9月 8日(日) 朋友ヴィッツ 私立中高説明会(武庫之荘トレピエ)
- 9月 8日(日) 新聞社主催 兵庫県私立中学高等学校展(甲南大学西宮キャンパス)
- 9月11日(水) 塾対象説明会(校内)
- 9月14日(土) 第1回 中学校説明会(校内)
- 9月18日(水) 新聞社主催 私立中高進学相談会(私学会館)
- 9月23日(月祝) 進学塾アイズ 私立中高進学説明会(セレクトンプレミア神戸三田)
- 10月 2日(水) 神戸市 私立高校入試合同説明会(神戸市総合教育センター)
- 10月 5日(土) 第2回 高校説明会・見学会(校内)
- 10月 6日(日) 出版社主催 学校進路相談会(イオンモール神戸北)

- 10月 9日(水) 加印地区高校入試合同説明会(加古川市人権文化センター)
- 10月12日(土) 宝塚説明会(宝塚ソリオホール) *台風のため中止
- 10月13日(日) 芦研模試会場・第2回 中学校説明会(校内)
- 10月13日(日) 新聞社主催 私立中高進学相談会(西宮フレンテホール)
- 10月15日(火) 加古川説明会(加古川まちづくりセンター)
- 10月18日(金) 三田説明会(三田市商工会館)
- 10月19日(土) 阪神西宮説明会(西宮市民会館)
- 10月22日(火祝) 出版社主催 学校進路相談会(パピオスあかし)
- 10月31日(木) 西神南説明会(西神南セリオホール)
- 11月 2日(土) 新聞社主催 親子で参加 私立中高進学セミナー(私学会館)
- 11月 3日(日) 日能研 神戸龍谷・松蔭合同説明会(日能研 学園都市校)
- 11月 9日(土) バザーで個別相談を実施(校内)
- 11月17日(日) プレテスト(校内)
- 11月24日(日) 第3回 中学校説明会(校内)
- 11月30日(土) プレテスト アドバイス会(校内)
- 12月 7日(土) 第3回 高校説明会・見学会(校内)
- 12月14日(土) クリスマスの集い(校内)
- 12月15日(日) 第4回 高校説明会・見学会(校内)
- 12月21日(土) 個別入試相談会(校内)
- 12月14日～1月17日 A方式入試・英語I入試 願書受付
- 12月14日～1月20日 英語II入試・B方式入試 願書受付
- 1月18日(土) 午前:A方式入試、 午後:英語I入試
- 1月19日(日) A方式入試・英語I入試合格者発表(掲示)
- 1月20日(月) 午前:英語II入試・B方式入試
- 1月21日(火) 英語II入試・B方式入試合格者発表(ホームページ・掲示)
- 1月25日(土) 合格者登校日(制服採寸・学用品購入等)
- 1月26日(日) 英検本会場 個別相談(校内)
- 2月10日(月) 高校入試
- 2月15日(土) 高校入学予定者 登校日
- 3月28日(土) 神戸市東地区女子中高一貫校合同説明会
(神戸海星・甲南女子・親和・松蔭)(東灘区民センター)
*新型コロナウイルス感染症の影響で中止

② 2020 年度中学入試結果

	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
A 方式入試	DS 約 120	GS 約 30	86	86	84	DS 79
英語 I 入試			20	20	DS 9 GS 8	※DS 3 GS 6
英語 II 入試	DS 約 20	GS 約 30	15	4	DS 1 GS 1	※DS 0 GS 1
B 方式入試			90	36	34	DS 6
合計	約 170	211	146	137	DS 88 GS 7	

※A方式入試・B方式入試との重複を除く。

③ 2020 年度高校入試結果

募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
約 20	24	24	24	24※

※専願、推薦方式の入試。うち 4 名が英語特別進学クラス入学

④ 2020 年度中学募集状況および高校募集状況

2019 年度の兵庫県内小学 6 年生児童数は前年比同様である。しかし、各私立中学校の募集状況は厳しい結果に終わっている。そのようななかで本校は、2020 年度中学入試で DS、GS のストリーム別募集を実施し、年度末の帰国生編入者を加えて 96 名（2019 年度 99 名）の入学生を確保できたことは、学校改革の効果といえよう。特に GS 入学生は、海外在住経験のある児童や帰国生入試を経た者、国内インターナショナルスクール出身者など多様な入学生となり、今後の展開が期待される。なお、小学生対象の英会話講座「松蔭 ELS 講座」の受講者が多数入学したことは、講座運営のねらい通りの結果となった。

高校入試においては、初めて募集数（20 名）を超える 24 名の入学者を得た。これは、中学校訪問専従者を 3 名体制（法人の募集対策職員 1、中高嘱託職員 1、中高専任教員 1）とし、地域ごと年間複数回の訪問活動としたことなどによる。この流れを継続させるため、広報活動をさらに拡充する。

(11) 進路関係

① 高 3 の進路状況全般（過去 3 カ年推移）

	2020 年度入試	2019 年度入試	2018 年度入試
神戸松蔭女子学院大学 (特薦)	37	41	40
外部大学	71	82	91
外部短大	2	5	8
専門学校・留学	4	7	5
その他	6	4	7
卒業生数	120	139	151

*松蔭特薦専願は 36 名であった。多くの生徒が内部進学を積極的に選択した。一方、併願合格者はわずか 4 名で、併願からの進学者は 1 名にとどまった。

② 2020 年度入試での外部大学進学者数一覧

大規模大学の定員管理厳格化や現行入試最終年度が影響し、社会一般で慎重な出願が目立つ入試となった。難関中堅私大にとどまらず、幅広い難易度の学校で数年前より難化した状態は続いており、本校生徒は苦戦を強いられることになった。その中で、早稲田大、立教大、同志社大、甲南大などにAO入試で合格者を出せたこと、公募推薦や一般入試でも京都市立芸術大、関西大、立命館大、近畿大、甲南大などさまざまな大学に合格者を出せたことは一定の成果であると考えられる。なお、進学希望者全員が進学先を確保できたことも、指導の結果であろう。

学校	人数	学校	人数
京都市立芸術大	1	園田学園女子大	1
早稲田大	1	神戸女学院大	6
国際基督教大	1	神戸薬科大	1
立教大	8	摂南大	1
関西学院大	7	東京国際大	1
関西大	9	同志社女子大	1
立命館大	1	姫路獨協大	1
京都産業大	1	兵庫医療大	1
近畿大	3	平安女学院大	1
甲南大	7	武庫川女子大	1
大阪国際大	1	明治学院大	2
大阪産業大	1	流通科学大	1
大阪歯科大	1	啓明大学校(韓国)	1
関西看護医療大	1	神戸女子短大	1
関西国際大	1	神戸常盤大短大部	1
京都看護大	1	尼崎健康医療財団看護専門学校	1
京都ノートルダム女子大	2	神戸動植物環境専門学校	1
甲南女子大	2	専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	1
神戸学院大	2	辻製菓専門学校	1
神戸芸術工科大	1		

(12) 刊行物

『松蔭 校長室だより』（校長、随時）、『学校報松蔭』、『ハンドブック』（総務部）、『青谷』（宗教部）、『航跡』（生徒会）、『PTAニュース』（PTA）等。

(13) 社会貢献・地域貢献

生徒による学外でのボランティア活動のほか、図書館は、公立中学校の「トライやるウィーク」プログラムによる生徒を、司書体験学習の一環として受け入れた。また、市内灘区、中央区の小学生、中学生を対象に、土曜日に図書館を開放する「サタデーライブラリー」を実施した。灘区、中央区の小中学校 11 校へ案内チラシを配布し、のべ 217 名の児童が利用した。

3. 大学

(1) 執行部関係

学 長	待 田 昌 二
副 学 長	竹 田 美 知
副 学 長	竹 中 康 之
学 生 部 長	中 村 博 文
教 務 部 長	柏 本 吉 章
図 書 館 長	松 田 謙 次 郎
入 試 部 長	古 家 伸 一
宗 教 主 事	山 内 啓 子
文 学 部 長	田 中 ま き
人 間 科 学 部 長	坂 本 真 佐 哉
教 育 学 部 長	谷 川 弘 治
事 務 局 長	永 井 良 昭

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部、教育学部の3学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2019年度は14回開催し、次の事項を審議した。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 入学試験、編入学試験の合否判定
- ④ 科目等履修生の受入及び単位認定
- ⑤ 学則改正

学則変更に関しては、特に大学情報の公表に関する条文を追加し、授業・成績評価基準・卒業要件・単位授与等に係る定めを明文化する変更を行った。

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画の策定や学部・大学院全体の教育課程の編成・実施を審議している。2019年度は3回会議を開催し、2020年度学部・学科、研究科・専攻及び課程のカリキュラムについて、初年次教育と卒業研究の授業改善と学科間・担当者間の評価基準の適切性について、履修登録単位数上限に係る履修規程の改正についての審議を行った。また、大学のディプロマ・ポリシーの学生への周知が十分に行われていない状況があり、初年次教育で学部学科の教育方針、ディプロマ・ポリシーを説明する機会を持つこととした。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2019年4月、教学機構に学長を室長とするIR室を開設し、IR室運営委員会を独立委員会に設置した。2019年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
教学委員会	45回
入試総務委員会	40回
国際交流委員会	8回
自己点検・評価運営委員会	2回
広報委員会	4回
個人情報保護委員会	0回
全学共通教育委員会	1回
教職教育委員会	1回
I R室運営委員会	10回
専門委員会	
学生部委員会	2回
人事委員会	14回
教務委員会	10回
図書館運営委員会	7回
学術研究委員会	3回
公開講座運営委員会	0回
キリスト教センター委員会	1回
FD委員会	9回
ハラスメント防止対策委員会	2回
環境対策委員会	0回
ネットワーク委員会	6回
研究倫理委員会	8回

(5) 教学関係

(ア) 教育課程（カリキュラム）

□2020年度カリキュラム、開講クラス数について審議を行った。

□教育の質保証と質向上のために、2020年度のシラバス作成に関するFD研修会を実施した。研修会では、シラバス内容について、ディプロマ・ポリシーに対応した到達目標の設定、具体的な授業計画、授業外学習の内容と時間をはじめ、学修時間と単位制度の実質化への取組みの強化、更に能動的な学習の姿勢を育成する取組みやICTを活用した双方向型授業の促進を重点課題として全教員に要請した。

□初年次教育と卒業研究の科目設定の指針を示し、担当者間の評価基準の統一とルーブリック評価の活用を促すと共に卒業研究の指導指針と質保証の方策（公開発表会・報告会）を明示した。

(イ) 新キャリアコース「Shoin キセキ」の作成

2019年度入学生から、神戸松蔭での4年間の学びと成長を記録するため、松蔭 manaba 上にコースを作成した。各学科が設定している「学びの目標」にそって学生自身が自分の目標を立て、キャリア教育と連動して学内・学外の様々な活動の記録、資格能力試験結果の記録、学生調査の分析結果も含めた学修ポートフォリオを作り上げ、将来設計や進路に役立たせていく。

(ウ) 卒業時アンケート

大学4年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、昨年度卒業生から「卒業時アンケート」を始め、2019年度卒業生に対して第2回目を実施した。今

年度は新型コロナウイルス感染拡大の非常事態により、アンケート調査の実施を予定していた卒業関連行事をすべて中止したため、郵送による調査となった。回収率が昨年度の94.6%から大幅に下がることが予想される。集計結果はIR室運営委員会で検証が行われ、公開される予定である。

(エ) 卒業者数

2019（令和元）年9月12日に、9月卒業の認定会議を開催し、文学部3名（英語学科1名、日本語日本文化学科1名、総合文芸学科1名）と人間科学部7名（心理学科3名、生活学科食物栄養専攻2名、子ども発達学科2名）の計10名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2020（令和2）年2月28日に卒業認定会議を開催し、文学部3学科116名と人間科学部4学科2専攻244名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。3月卒業生の総数は360名である。

(オ) 標準修業年限で卒業した学生の割合等

2016年度入学生の修業年限（4年）での卒業者数、卒業率、留年者数、中途退学者数等は次表のとおりである。

学部	入学者数 (2016年)	修業年限内 卒業者数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率
文学部	129人	112人	86.8%	9人	7%	8人	6.2%
人間科学 部	262人	230人	87.8%	13人	5%	19人	7.3%
大学計	391人	342人	87.5%	22人	5.6%	27人	6.9%

(6) 大学院教育

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指すとともに、研究倫理教育と研究不正防止に取組み、各専攻・指導教員が大学院の授業や個別指導を通して倫理教育を実施した。人を対象とする研究については研究計画の提出を求め倫理綱領等による審査、判定を行っている。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、教務部長、学生部長、入試部長および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月1回開催としている。2019年度は10回開催し、次の事項を審議した。

- ① 2020年度教育課程に関する事項
- ② 2019年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③ 2020年度教員人事（英語学専攻専任教員1名）に関する事項
- ④ 大学院入試に関する事項
- ⑤ 予算の編成等に関する事項

2020年（令和2）年3月5日の大学院委員会（修了認定会議）において、文学研究科国語国文学専攻（修士課程）1名と心理学専攻（修士課程）8名の学位論文審査結果並びに最終試験判定結果を審議し、国語国文学専攻1名、心理学専攻8名の修了を認定。修士（国語国文学）1名、修士（心理学）8名の学位授与を承認した。英語学専攻と言語科学専攻については該当者無し。

(7) 学生生活関係

① 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部 (8)】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、ラクロス部、アーチェリー部、剣道部、合気道部

【文化部 (9)】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部、I.S.A、松蔭 TFT

【同好会 (5)】

写真同好会、軽音同好会、フットサル同好会、ダンス同好会、ゴルフ同好会

2019年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

小村カップ全国クラブ対抗ソフトテニス大会	団 体	優勝
関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会	シングルス	ベスト8
兵庫県大学チーム対抗ソフトテニス競技大会	団 体	優勝
関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 (一部)	団 体	優勝
近畿ソフトテニス選手権大会	ダブルス	ベスト8
関西学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝
全日本大学ソフトテニス王座決定戦	団 体	3位
兵庫学生ソフトテニス優勝大会	ダブルス	2位
西日本学生ソフトテニス選手権大会	団 体	優勝
	ダブルス	3位
	シングルス	3位
全日本学生ソフトテニス選手権大会	団 体	2位
	ダブルス	ベスト16
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦 (一部)	団 体	3位
兵庫学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝
兵庫県ソフトテニス選手権大会	ダブルス	3位
関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス	2位
関西学生選抜インドアソフトテニス選手権大会	ダブルス	優勝
兵庫学生ソフトテニス新進大会	ダブルス	3位
井ノ口杯全国ソフトテニス大会	ダブルス	ベスト8

【テニス部】

関西オープンテニス選手権大会	シングルス	ベスト16
	ダブルス	ベスト8
関西学生春季テニストーナメント	シングルス	ベスト16
関西大学対抗テニスリーグ戦 (二部)	団 体	3位
関西学生地域テニストーナメント	シングルス	ベスト16
	ダブルス	ベスト16

【なぎなた部】

神戸市民体育大会なぎなた競技会	演技の部 優勝 団体の部 優勝 個人の部 優勝
関西学生なぎなた選手権大会	演技の部 優勝 団体の部 優勝 個人の部（初段） 優勝 個人の部（有段） 2位
全日本学生なぎなた選手権大会	団体の部 優勝
関西学生なぎなた新人戦大会	演技の部（有段） 優勝 リズムなぎなた 優良賞
西日本学生なぎなた選手権大会	演技の部 2位

【卓球部】

関西学生新人卓球大会	団 体 優勝 シングルス 3位
関西学生卓球春季リーグ戦（一部）	団 体 2位
前期日本卓球リーグ豊田大会（二部）	団 体 2位
関西学生卓球選手権	シングルス 優勝 ダブルス ベスト8
全日本大学総合卓球選手権大会	団 体 ベスト16 シングルス ベスト8
関西学生卓球秋季リーグ戦（一部）	団 体 3位
後期日本卓球リーグ秋田大会（二部）	団 体 2位
オール西日本卓球選手権大会	シングルス 2位

② 学生生活

(ア) 学内奨学金について

2019年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・入学生特別奨学金① 2年目継続	7	・入学前予約型給付奨学金	1
・入学生特別奨学金② 2年目継続	3	・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	20
・入学生特別奨学金③ 2年目継続	3	・外国人留学生給付奨学金	1
・姉妹等奨学金	15	・社会人特別編入学奨学金	7
・松蔭ファミリー入学金優遇制度	35	・ Semester 留学奨学金	40
・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	17	・1年留学奨学金	3
・夢・未来サポート特待生奨学金 50	26	・留学奨学金	0
・夢・未来サポート特待生奨学金 100	1	・社会人特別入学奨学金	0

(イ) 学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2019年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学	
奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	296
日本学生支援機構 第二種	527
その他 (2件)	2

大学院	
奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	2

B. 学外給付奨学金について

2019年度の学外給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 給付	19
その他 (5件)	5

(ウ) 大学祭 (松蔭祭)

日 時	来場者数 (正門受付)
2019年11月16日 (土) 10:00-17:00	1,177名
11月17日 (日) 10:00-16:30	908名
	計 2,085名

【テーマ】 To be in harmony

これまで出逢った人たちとのつながりに感謝を、そして来場者も学生たちもわきあいあいと活気ある楽しい大学祭にしたい！という思いを込めた。

【主なイベント】

- ・ファッション・ハウジングデザイン学科生によるファッションショー
- ・タレントスペシャルトークショー
- ・模擬店・展示
- ・野外ステージ
- ・その他、ビンゴ大会等

(エ) ハラスメント対策

1999年にセクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドラインを定め、さらに相談体制や調査機関を整備し、人権が尊重されるキャンパスをめざしている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを全教職員及び全学生に配布した。また2019年度は、全教職員を対象に10月31日にハラスメント研修会を実施しハラスメント防止の啓発に努めた。

(オ) 学生支援室

学生支援室では、身体障害、発達障害、精神障害、慢性疾患あるいは心理的問題がある学生の修学支援や不登校の学生の相談対応をしている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2019年度は、80名の障害や病気のある学生を支援した。

(カ) 学生相談室

学生相談室には、常時臨床心理士の資格をもつカウンセラーが在室し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、保護者・教職員からの学生についての相談（コンサルテーション）にも対応している。2019年度学生相談室利用実績は以下の通りである。

相談件数

のべ 942 件、相談実人数 146 名（学生 133 名、保護者 7 名、教職員 6 名）。（昨年度は、のべ 792 件であり、相談件数は増加した）。

学生相談室実施のグループワーク利用実績

- ・ハロークラブ（毎月 1 回昼休みに、茶話会、クラフト、フラワーアレンジメントなどの会を実施。11 年目。年間 8 回実施、のべ 35 名参加（前年度は 37 名）
- ・ほっこりカフェ（毎月 1 回昼休みに、過年度・復学・編入学の学生を対象に茶話会を実施。仲間を作る場所になっている。4 年目。年間 8 回実施、のべ 8 名参加（前年度は 1 名）。
- ・ランチクラブ（毎月 2 回昼休みに、面談室を開放し、自由に昼食をとってもらう会を実施。年間 15 回実施、のべ 11 名参加）。

(キ) 保健室

利用者数の推移は年々増加傾向である（来室者総数のべ 5624 人）。利用内容としては 2019 年度と比較すると、メンタル利用が若干減少し、健康相談が増加。保健室の利用目的は多岐に私、業務が煩雑になりかねない状況にある。2019 年度の主な保健室の活動は次の通り。

1) 健康診断受診の徹底

- ・在校生健康診断 受診者数 1182 名
 - ・新入生健康診断 受診者数 752 名
- ※総受診者数 1939 名（受診率 99.9%）

2) 健康診断内科診察時全学生の健康チェック

3) 入学前健康チェック

2019 年度入学生入学前面談 15 名

4) 学外実習参加前健康チェック

5) 留学生への問診、留学中の健康管理指導

- ・持病があり留学する学生について国際交流、学生支援室、保護者、本人で面談を実施。

6) 寮へ訪問し寮生の健康相談と健康管理指導

7) 学生支援室と連携

8) 体組成計を利用した健康指導

9) 学外実習に参加する子ども発達学科、食物栄養学科への保健指導

10) その他

＝感染症の件について＝

*2019 年度の MR ワクチン第 3 期接種率 92.2%

*2020 年度の健康診断実施に向けて感染症対策

- ・隔離室の確保
- ・除菌スプレー、除菌シート購入
- ・健康診断時の感染症対策を兵庫県予防医学協会と入念に打ち合わせ
全員マスク着用、手指消毒、人との距離を保つように誘導、
各教室、廊下の換気等

(ク) 学生寮

今年度も六甲寮の寮生に対して、6 月 8 日（土）の消防訓練実施の際、本学保健室看護師による健康チェックを行い、全寮生の健康管理を行った。

(ケ) 松蔭GPについて

2019年度の松蔭GPは、以下の4つの企画が実施された。

1. 「神戸松蔭の魅力をカレンダーおよびクリアファイルで伝える」プロジェクト
2. 神戸松蔭のお宝、公開！！ ―図書館所蔵古典籍の展示とグッズ製作―
3. 松蔭ビオラプロジェクト
4. 「ともに生きる」を実現する松蔭プロジェクト：バリアフリーとユニバーサルデザインの視点から考える

(コ) キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業を行った。また警備員による学内巡回警備をはじめ防犯カメラによる防犯体制を敷き、学生の安全・安心に配慮した。

(カ) 体育施設について

経年劣化したテニスコート全て（8面分）のネット支柱の交換と、8面中2面分の照明のLED照明化をおこない、正課活動（体育）、正課外活動（テニス部、ソフトテニス部）に支障がきたさないよう配慮した。なお、テニスコートのLED照明化は今後順次実施予定である。

(シ) 教育後援会（保護者会）について

教育後援会は、学生・保護者・大学の三者間の連携を深めることでより一層の学生生活の充実を図り、家庭と大学が一体となって学生の成長を支援していこうという主旨で設立され12年目となる。役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう事務局として支援した。

今年度実施した総会、役員会開催日程及び主な行事は以下の通りである。

- ・総会 2019年5月25日（土）
- ・幹事会 2019年6月15日（土）、9月28日（土）、2020年2月1日（土）
- ・役員会 2019年7月27日（土）、11月30日（土）、2020年2月22日（土）
- ・教育懇談会 2020年2月22日（土）
- ・保護者懇談会 本学：2019年10月12日（土） → 台風19号接近の為中止
地方会場（岡山）：2019年10月19日（土） 8組参加

(8) 国際交流関係

① 語学研修・海外インターンシップについて（全学科全学年対象）

- (ア) 夏期語学研修：アクサン・フランセ（フランス）5名
- (イ) 夏期海外インターンシップ：バンクーバー（カナダ）5名
- (ウ) 春期語学研修：アデレード大学（オーストラリア）15名
- (エ) 春期海外インターンシップ（ハワイ・ホノルル）：新型コロナウイルス拡大のため派遣中止
- (オ) 春期海外インターンシップ（中国・広東省）：新型コロナウイルス拡大のため派遣中止

② セメスター留学について（英語学科2年後期対象）

- (ア) ヨーク・セント・ジョン大学（イギリス）10名
- (イ) デラウェア大学（アメリカ）2名
- (ウ) アデレード大学（オーストラリア）7名
- (エ) オークランド大学（ニュージーランド）7名
- (オ) ビクトリア大学（カナダ）13名
- (カ) ヨーク大学（カナダ）11名

③ 学科別海外研修について

- (ア) 日本語日本文化学科（海外日本語教育実習）：新型コロナウイルス拡大のため派遣中止
 (イ) FHD 学科（海外研修）：最小催行人数に達しなかったため、実施せず。

④ 海外日本語教育助手について

- (ア) 北京外国語大学（中国）：1名（英語学科 2018 年度卒業 1名）
 派遣期間 2019 年 9 月～2020 年 1 月 *新型コロナウイルス拡大のため、任期途中で終了
 (イ) 閩江学院（中国）：1名（日本語日本文化学科 2018 年度卒業 1名）
 派遣期間 2019 年 9 月～2020 年 1 月 *新型コロナウイルス拡大のため、2020 年 1 月より日本にて自宅待機の後終了。
 (ウ) アデレード大学（オーストラリア）：1名（英語学科 2018 年度卒業）
 派遣期間 2019 年 4 月～9 月
 (エ) ダルマプルサダ大学（インドネシア）：1名（国語国文学専攻 2 年生 1名）
 派遣期間 2020 年 2 月～3 月（4 週間）
 (オ) ベトナム国家大学ホーチミン市校（ベトナム）：新型コロナウイルス拡大のため派遣中止

⑤ 受け入れ留学生

- (ア) 大 学：私費留学生 3 名（英語学科 4 年生、食物栄養学科 2 年生、FHD 学科 1 年生）
 ヨーク・セント・ジョン大学（イギリス）交換留学生 3 名
 北京外国語大学（中国）留学生 1 名
 閩江学院（中国）留学生 1 名

(9) キャリアサポートセンター関係

① 学生の就職支援

就職オリエンテーション、就職ガイダンス、Brush Up セミナー（自己 PR、学チカ、面接基礎・実践）、各種講座（グループディスカッション講座、エアライン講座、筆記試験対策講座、業界・企業研究講座、Uターン就職セミナー）、学内業界研究会（企業説明会）、証明写真撮影会、キャリアカウンセリング（個別相談）、JobHunter（就職支援システム）の運営等を実施。

② 就職状況（2020 年 3 月 31 日現在）

求職者数	就職者数	就職率
306 人	303 人	99.0%

③ 主な就職先

株式会社 ミライト	株式会社 JR 西日本コミュニケーションズ	株式会社 神戸ポートピアホテル
積水ハウス 株式会社	株式会社 JTB メディアリテーリング	株式会社 新神戸ホールディング
積和不動産関西 株式会社	株式会社 日本旅行	株式会社 ホテルニューアワジ
住友不動産販売 株式会社	株式会社 近畿日本ツーリスト関西	リゾートトラスト 株式会社
住友林業ホームサービス 株式会社	神戸トヨペット 株式会社	株式会社 テイクアンドギヴ・ニーズ
株式会社 あみだ池大黒	兵庫トヨタ自動車 株式会社	株式会社 ノパレーゼ
株式会社 ロック・フィールド	ネットトヨタ兵庫 株式会社	株式会社 アクティブライフ
第一屋製パン 株式会社	株式会社 トヨタレンタリース大阪	総合警備保障 株式会社
日本ハムファクトリー 株式会社	株式会社 トヨタレンタリース神戸	株式会社 全日警

株式会社 ドンク	ソフトバンク 株式会社	丹波ささやま農業 協同組合
株式会社 モスフードサービス	イズミヤ 株式会社	兵庫六甲農業協同組合
株式会社 ケーニヒスクローネ	株式会社 ヤマダ電機	JA 北大阪農業協同組合
株式会社 セイバン	住友生命保険 相互会社	青山商事 株式会社
日本トイザラス 株式会社	第一生命保険 株式会社	株式会社 ビームス
北沢薬品 株式会社	明治安田生命保険 相互会社	ジャヴァコーポレーション 株式会社
株式会社 三洋商事	朝日生命保険 相互会社	株式会社 ユナイテッドアローズ
宮野医療器 株式会社	尼崎信用金庫	シャネル 合同会社
パナソニックカーエレクトロニクス 株式会社	西兵庫信用金庫	社会福祉法人 明薫会 うみの風こども園
パナソニック株式会社 ライフソリューションズ社	一富士フードサービス 株式会社	社会福祉法人 大慈厚生事業会
富士ゼロックス兵庫 株式会社	富士産業 株式会社	社会福祉法人 桜谷福祉会
株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS	淀川食品 株式会社	社会福祉法人 松蔭ミカエル福祉会
ANA 関西空港 株式会社	エームサービス 株式会社	学校法人 追手門学院 追手門学院幼稚園
ANA ウイングス 株式会社	シダックス 株式会社	学校法人 茅渚の浦学園 茅渚の浦幼稚園
株式会社 JAL スカイ大阪	株式会社 日米クック	学校法人 賢明学院 賢明学院幼稚園
株式会社 K スカイ	株式会社 コスモス薬品	兵庫県教育委員会
CKTS 株式会社	公益財団法人 加古川総合保健センター	豊中市教育委員会
ジェットスター・ジャパン 株式会社	ピアス 株式会社	川崎市教育委員会
川西倉庫 株式会社	株式会社 コーサー	横浜市教育委員会
株式会社 ジェアール東海パッセンジャーズ	株式会社 ラスイート	伊丹市役所

(10) 入試関係

本学の入試制度

- ① 特別推薦入学（指定校）
- ② 松蔭高校生特別推薦選考
- ③ スポーツ優秀者推薦選考（Ⅰ期、Ⅱ期）
- ④ A〇入試（Ⅰ期、Ⅱ期）
- ⑤ 有資格者特別入学試験
- ⑥ 社会人特別入学試験（Ⅰ期、Ⅱ期）
- ⑦ 帰国子女特別入学試験
- ⑧ 海外指定校特別推薦入学
- ⑨ 外国人留学生特別入学試験
- ⑩ 推薦入学試験A・B日程（推薦入試前期日程）
- ⑪ 推薦入学試験C日程（推薦入試後期日程）
- ⑫ 一般入学試験A日程
- ⑬ 一般入学試験B日程
- ⑭ 一般入学試験C日程
- ⑮ 一般入学試験D日程
- ⑯ 大学入試センター試験を利用する選抜（センターA・Bプラス・C・D）

上記の入試制度により募集を行った結果、次のとおりの入試結果となり、大学は入学定員 570

名に対して入学者 584 名、定員充足率 102%であった。

2020 入試結果

大 学		募集人員	志 願	受 験	合 格	入 学
	指 定 校	94	156	156	156	156
	松蔭高校生		41	41	41	38
	スポーツ		22	22	22	22
	AOⅠ期	55	64	64	64	64
	AOⅡ期		10	10	10	10
	有資格者	若干名	6	6	6	6
	社会人Ⅰ・Ⅱ		0	0	0	0
	帰国子女		1	1	1	1
	海外指定校		0	0	0	0
	外国人留学生		0	0	0	0
	推 薦 A	130	411	405	288	78
	推 薦 B		458	261	149	37
	推 薦 C		290	286	199	57
推薦・特別選抜計		279	1,459	1,252	936	469
	一 般 A	249	822	808	279	35
	一 般 B		479	424	102	11
	一 般 C		447	385	197	38
	一 般 D		230	131	29	10
	センターA	42	614	610	136	6
	センターAプラス		466	462	88	1
	センターB		232	232	66	8
	センターBプラス		179	179	56	2
	センターC		133	133	51	4
	センターD		69	69	12	0
一 般 選 抜 計		291	3,671	3,433	1,016	115
合 計		570	5,130	4,685	1,952	584

(2) 広報関係

① 出版物の作成

大学案内、入試ガイド、クイックガイド、受験生向け広報誌「Plus S」（年 3 回発行）、合格おめでとう号、トピックスリーフレット、入試問題集等の作成

② 公式サイトの更新

公式ホームページの情報更新等メンテナンス

③ 受験生向けサイトの充実

大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報の随時更新、LINE 配信

④ 会場説明会

関西、北陸、中・四国などで開催される説明会に参加（年 19 回）

- ⑤ 高校内説明会
主に、兵庫、大阪の高校内で開催される相談会・進学説明会に参加（年 186 回）
松蔭高等学校内での学科毎の説明会の実施
- ⑥ オープンキャンパス等の実施
6 月、7 月、8 月、9 月、3 月に開催するオープンキャンパスの企画、運営（年 7 回）
入試対策講座、授業見学会
- ⑦ DM の作成、発送
オープンキャンパス、会場説明会の案内用 DM、チラシの作成及び発送
媒体紙の作成（新聞、雑誌）
業者企画の進学雑誌の作成、編集、校正
- ⑧ 高校訪問専従者による高校訪問と専任職員による高校訪問
高校訪問専従者による兵庫県と大阪府のほぼ全域と、岡山県、広島県と徳島県、鳥取県の一部；
約 383 校への定期的な高校訪問ならびに高校訪問資料の作成
- ⑨ 交通広告の作成
駅・バス停の看板の作成及び意匠変更
車内ポスターの作成
- ⑩ その他 WEB 関連の作成
業者企画の WEB サイト上の本学情報の作成及び変更
- ⑪ 高校教員対象の説明会の実施
大阪、本学で実施
- ⑫ キャンパスグッズの作成
- ⑬ 学生広報スタッフ研修会の実施
- ⑭ その他
その他各種団体からの広告要望への対応
各種団体からの取材要望への対応

(11) 施設・設備関係

- ① 教育学科・小学校模擬教室新設に伴い、544 教室を改修した。
- ② 2 号館 211 教室他一階部分を、空調個別化に改修した。
- ③ 2 号館 213、233 教室の照明を、LED 照明器具に更新した。
- ④ 7 号館 734 教室の空調増強改修を実施した。
- ⑤ テニスコート夜間照明灯 30 ヶ所の内、9 ヶ所を更新した。
- ⑥ 敷地南側高木の、倒木防止対策を実施した。
- ⑦ 六甲セミナーハウス閉鎖に伴う建物解体、敷地現状復旧を実施した。
- ⑧ 松蔭大学会館内、駐車場管制システムを更新した。
- ⑨ 大山ロッジの、漏水ヶ所修繕を実施した。

(12) 情報インフラ整備関係

- ① 汎用機（ACOS）のページプリンタ 2 台を更新、またページプリンタ制御用のプリントポートサーバの入れ替えも行ない、処理速度の向上を図った。
- ② 情報漏洩対策（SKYSEA）用サーバの更新を行った。
- ③ マークシートリーダー（OMR）1 台の入れ替えを行なった。

- ④ 学生キャリア支援システム (JobHunter) 用サーバおよびシステムの更新を行った。
- ⑤ 大学院心理学専攻用のパソコン 15 台、プリンタ 3 台の更新を行った。
- ⑥ 事務系のパソコン 26 台の更新、パソコン 3 台とプリンタ 1 台の新規設置を行った。
- ⑦ 拡大プリンタの入れ替えを行なった。

(13) キリスト教センター関係

- ① スーンサービス：授業期間中の月、水、木、金曜日 12:40～13:00

チャペルにて 101 回 (特別礼拝 2 回)

- ・ 聖週 (受難週) 礼拝 4 月 8 日～4 月 12 日
- ・ 復活日礼拝 (イースター礼拝) 4 月 25 日
- ・ 聖霊降臨日礼拝 (ペンテコステ礼拝) 6 月 13 日
- ・ 全校平和祈禱週間 7 月 1 日～7 月 5 日
- ・ 誕生日感謝礼拝 7 回
- ・ 教育後援会総会礼拝 5 月 25 日
- ・ 日本語・日本文化研修歓迎礼拝 7 月 11 日
- ・ セメスター留学壮行礼拝 8 月 1 日
- ・ チャペル奉仕学生任命式 10 月 31 日
- ・ 逝去者記念礼拝 11 月 7 日
- ・ 松蔭祭のためのお祈り 11 月 15 日
- ・ 広島平和礼拝報告会 12 月 12 日
- ・ 阪神淡路大震災記念礼拝 1 月 10 日
- ・ 成人祝福礼拝 1 月 15 日

- ② 特別礼拝

- ・ 入学感謝礼拝 4 月 6 日
- ・ ホームカミングデー開会礼拝 11 月 16 日、12 月 21 日
- ・ クリスマス・キャンドルサービス 12 月 4 日
- ・ クリスマス礼拝 12 月 6 日
- ・ 新年礼拝 1 月 6 日
- ・ 管理栄養士国家試験のための礼拝 2 月 26 日

- ③ 式典

- ・ 平和の折鶴献納 (広島) 8 月 6 日
- ・ 9 月学位記授与式 9 月 20 日
- ・ 名誉教授称号授与式 9 月 26 日

- ④ 募金活動

2019 年度 合計 ¥1,003,264

- ・ チャリティコンサート・レクチャーコンサートチケット販売代金 ¥633,691
- ・ ボランティア・カフェ「リースヒェン」 実施 9 回の売上全額 ¥149,200
- ・ 被災地支援のための募金活動 (5 回実施) ¥70,628
- ・ クリスマス礼拝での席上献金および学内教職員献金 ¥108,165
- ・ その他献金 ¥41,580

- ⑤ 献金先訪問：3 回 (2 月 17 日、3 月 17 日、3 月 19 日)

⑥ 結婚式：5組

⑦ 公開行事・イベント

- ・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 3回
6月1日、9月21日、2月15日
- ・第7回子どもわくわくスクール「パイプオルガンにさわってみよう！」8月1日
- ・第153回オルガン・レクチャーコンサート 1回 6月29日
- ・クリスマス・ツリー点灯式 11月28日
- ・クリスマスチャリティコンサート 12月14日

⑧ 印刷物

- ・チャペル・ニュース (発行1回 第121号)

⑨ 合宿・研修

- ・チャペル奉仕グループ全体オリエンテーション 7月13日 (場所：本学チャペル)
- ・広島平和礼拝2019 平和の折鶴献納 8月5日～6日
- ・ブライダル・キャプテン研修 8月9日 (場所：ウェディングサロンイノウエ)
- ・聖歌隊合同練習 8月23日 (場所：四国学院大学)
- ・カフェユ研修 8月28日～29日 (場所：萩原珈琲工場見学、大江の郷自然牧場)
- ・ブライダル・キャプテン研修 9月5日 (場所：本学チャペル)
- ・聖歌隊合宿 9月9日～11日 (場所：母の家ベテル)
- ・オルガン奏楽グループ 9月22日～23日 (場所：奈良基督教会、桃山学院大学)
- ・オルガン奏楽グループ 2月5日 (場所：本学チャペル)
- ・オルガン奏楽グループ 2月6日 (場所：神戸国際大学)
- ・カフェユ研修合宿 2月16日～17日 (場所：岡山聖オーガスチン教会他)

(14) 図書館関係

① 図書館

〈所蔵数〉2020年3月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵書冊数(備品)	411,575冊	302,501冊	109,074冊
雑誌種類数	3,530種	2,702種	828種
A V 資料	12,520点		

〈2018(平成30)年度受入数〉	(合計)	(和書)	(洋書)
図書	4,947冊	4,510冊	437冊
雑誌	1,021種	937種	84種
A V 資料	106点		
消耗図書	371冊		

<図書館活動>	(合計)	(学生)	(教職員他)
入館者数	42,150人	37,539人	4,611人
図書貸出数(A V資料含む)	30,505点	24,283点	6,222点
ノートパソコン貸出数	1,695台	1,640台	55台

開館日数 272 日

相互利用 (他大学との協力)

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
104	301	29	168	12	16

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1年生全員に実施
- ・新任教員、大学院生、編入生、留学生向けオリエンテーション実施
- ・2年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンス実施

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介(毎週月曜日より1週間)
- ・女子高校生へ図書館開放
- ・「トライやる・ウィーク」3校7名受入
- ・授業公開講座受講生への図書館資料貸出
- ・「学生による選書ツアー」年1回実施
- ・「図書館の仕事体験プログラム」5日間実施
- ・「読書ラリー」実施(目標:卒業までに100冊読もう)
- ・「図書館古本市場」年1回(連続5日間)実施(除籍資料の活用)
- ・「学内選書フェア」年1回(連続5日間)実施
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・「図書館脱出ゲーム」実施
- ・図書館サポーター主催「ワークショップ(コラージュで作るしおり&ブックカバー他)」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」実施
- ・図書館総合展「第4回全国学生協働サミット」「キャラクターグランプリ」
図書館サポーター3名参加、
- ・週刊読書人「書評キャンパス」図書館サポーター1名参加
- ・本学図書館サポーターと神戸大学附属図書館学生チーム ULiCS(うりくす)の学生さんとの交流会を神戸大学社会科学系図書館にて実施
- ・授業との協働の取り組みによる成果物を閲覧室にて展示(「Find your Library」,「伝わる文章」)

② 学術研究委員会

- ・出版 機関誌2誌をオンラインで刊行(研究紀要、TALKS)
- ・研修 「研究倫理eラーニングコース」大学院新入生他受講

(15) 地域連携

- 大学所在地の神戸市灘区まちづくり課との包括連携協定に基づく「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成」で「摩耶山の活性化に取り組む活動」として摩耶山掬星台での「ジャン

ボ・シャボン玉イベント」や「オープンハート。ジャンボイルミネーション」を摩耶山に向け点灯する等、六甲山・摩耶山の観光需要創出に参画した。また、灘区内の様々なイベントに学生ボランティアを派遣したり、灘区婦人会主催の「民踊春祭り」にて「ファッションショー」を披露する等地域活性化に貢献した。

神戸市関連では人間科学部ファッション・ハウジングデザイン学科がクロスメディアイベント「078」で事業助成金を獲得し、“神戸”という都市イメージ向上のため学生を中心とした「ファッションショー」を開催、「神戸タータン」生地を使った洋服を多数作成しファッションショーを実施、「KOBE タータン」のPR活動の一翼を担った。

- 連携協定先である神戸市立博物館関連の事業として「神戸の文化発信実行委員会」主催イベント「明治居留地音楽会」を本学チャペルで開催。また、大正時代の洋装再現と明治時代の洋菓子の再現については、本学の学生と教職員が制作を担当し、3月22日(日)にドレス試着体験と洋菓子試食体験を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止とはなったが、本学の学びと博物館の地域事業を連動させたものであり、神戸の魅力と本学の地域貢献活動を広報する良い機会となった。
- 2018年11月に連携協定を締結した神戸ファッション美術館とは、相互の人的・知的資源交流による地域連携の強化を図る体制を整えることにより、ファッション・ハウジングデザイン学科の卒業研究作品展示や、本学図書館所蔵の貴重図書である「ジョルジュ・バルビエ」の版画集のカレンダーやクリアファイルを制作して地域へ知的財産を披露する活動を行った。

(16) 言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の発行
2. 研修員・研修生の受け入れ
3. 国内外の研究者による研究講演会(コロキウム)の開催
4. ウェブサイトによる情報の発信

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の発行

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* No.23 を発行した。No.23 は7名の執筆者により7編の論文を含み、内容も音韻論、文法論、意味論、日本語学、英語教育研究と分野が多岐にわたり、総ページ数も80ページとなった。本紀要はよく読まれており、No.21ではダウンロード数が1000を超えているものがある。

2. 研修員・研修生の受け入れ

2019年度は客員研究所員4名、研修員2名を受け入れた。

客員研究所員、研修員は紀要 *TALKS* に投稿のほか、国内外での学会発表など活発な研究活動を行っている。

3. ウェブサイトによる情報発信

2015年に全面リニューアルした研究所のウェブサイトでは、紀要 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の全論文を神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して閲覧できるようにしている他、所員、客員研究所員、研修員が関わっている日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)および「科研費」以外の資金による研究を示すページを作っており、年度内にあらたに採択された研究のデータを追加している。

(17)外国語教育センター

2019年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ① 全新入生への TOEIC Bridge IP TEST 実施（4月）、650名
- ② TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施（前期）
- ③ 事前登録、新入生外国語科目変更等、履修登録関係取扱い
- ④ 英語科目履修者への TOEIC Bridge IP TEST 実施（7月）、590名
- ⑤ TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施（後期）
- ⑥ 英語科目受験資格なし調査実施（前期・後期）
- ⑦ 英語科目合同追試験実施（前期・後期）
- ⑧ 外国語教育センター科目担当者（専任・非常勤）連絡会
中国語 1/31（金）5名（非常勤4名+専任1名）参加、英語 1/21（火）15名（非常勤講師8名+専任5名、職員2名）参加、日本語 9/17（火）7名（非常勤6名+専任1名参加）
- ⑨ TOEIC Bridge 監督要領説明会実施 6/25（火）、6/26（水）
- ⑩ 全学希望者向け TOEIC IP TEST 年3回実施(6月26日30名、10月29日34名、1月27日50名参加)
- ⑪ English Island 開室
延べ利用者数 前期4月～7月 941名、後期9月～1月 855名
・ ピザパーティー 5/10（金）実施、122名参加
・ ハロウィーンパーティー 10/31（木）実施、70名参加
・ クリスマスパティー12/12（木）実施、40名参加
- ⑫ 外国語応援サロン（講師）開室
延べ利用者数 前期4月～7月 285名、後期9月～1月 262名
- ⑬ 外国語応援サロン（AI/PI）開室
延べ利用者数 前期4月～7月 6名、後期9月～1月 12名
- ⑭ CALL&LL 教室運営
老朽化およびシステムサポート停止のため、CALL&LL 教室改修プロジェクト立上
Shoin Movie Theater 毎週1回授業空き時間を利用して実施
- ⑮ 英語スピーチコンテスト開催 12/19（木） 195名参加
- ⑯ 学内向け Web サイト管理運営
外国語教育センターホームページ、CALL&LL 教室、English Island

(18)情報教育センター

情報教育センターが2019年度に実施した主な事業は次の通りである。

【情報教育・コンピュータ教室関係】

- ・ 情報教育改善のための Web アンケートを、前期講義期間に情報系列科目の各クラスを受講生を対象として実施し、センターで集計して結果をまとめた。
- ・ 年度初めに「Windows 教室ガイド 2019.4」を作成・発行し、情報系列科目受講生や教職員に配布した。
- ・ SA (Student Assistant) に対し、業務内容についてのオリエンテーションとスキルチェックを実施した。また、SAのスキル向上のため、前期3回、後期3回の勉強会を個別に実施し、各期の終わりには、勉強会についてのアンケートを SA に対して行った。さらに期毎の SA

の活動を報告した。

- ・ Windows 教室の座席カバーを新しいものに交換した。
- ・ Windows 教室では利用者の利便性を考慮して、最新の Windows 10 の他に Windows 7 の利用環境を提供してきたが、2020 年 1 月 14 日に Windows 7 のメーカ・サポートが終了したのに伴い、後期講義期間終了後に実施した次年度環境整備により Windows 7 の利用環境の提供を終了した。

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として、活動している。

① 教育活動について

2019 年 3 月に本学大学院を修了した者 11 名のうち 9 名が、2019 年度の（財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率 81.8%、全国の合格率 62.7%）。本学出身の受験者総数は 12 名で、全体の合格者は 10 名であった（合格率 83.3%）。

また、国家資格である第 2 回公認心理師試験は、2019 年 3 月に本学大学院を修了した者 11 名のうち 6 名が合格した（合格率 54.5%、全国の合格率 46.4%）。

② 心理相談活動について

本年度には、新規の相談申し込みは 77 事例（昨年度 67 事例）であった。相談回数は、合計 1535 回（昨年度 1431 回）であった。

③ 研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第 14 号」を 2019 年 7 月に刊行した。教員による学術論文を 2 点、センター相談スタッフによる研究論文を 11 点掲載した。研究報告誌は、全国の臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーバイザー、本学教員など）に送付した。

また、坂本真佐哉教授が代表・世話人を務める「神戸松蔭システムズアプローチ研究会」を 5 回開催し、参加者数の合計は、延べ 150 名であった。また、今年度の登録者数は、新規入会者 13 名を含め 196 名であった。

④ 広報活動について

当センターを地域一般に認知し、利用していただけるように、無料相談会を 2 回（春季 5 月 27 日～6 月 7 日、秋季 10 月 21 日～11 月 1 日）行い、灘区内の小学校、幼稚園にチラシを配布し、マスメディアへ記事掲載を依頼した。相談期間中の相談受付数は、春季 18 件、秋季 18 件であった。

(20) キャリア教育センター

キャリア教育センターは各学科・センター、特にキャリアサポートセンターと連携しながら、本学のキャリア教育の充実を目標に以下のような活動を実施し、学生一人ひとりが入学時（前）から卒業後も見据えて就職・進路に積極的かつ体系的に取り組めるように支援した。

- ① 入学時からの履修モデルとして「キャリアデザインプログラム」の推奨科目は、以下の通りである。

「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザイン研究」、「ファイナンシャル・プランニング」、「簿記会計の基礎」、「簿記会計の実践」、「企業・職種・業界の基礎知識」

- ② 就労体験としての「インターンシップ」を実施した。2019 年度はキャリアサポートセンター

を通して 11 名の学生が参加した。

【インターンシップ先】

- ・播州信用金庫
- ・TAMAMI HOLDINGS 株式会社
- ・野村證券 株式会社(2 名)
- ・灘区まちづくり課(2 名)

以下 3 つについては、実習期間不足のため単位認定は行わなかった。

- ・株式会社 神戸新聞社(2 名)
- ・ANA 関西空港 株式会社(2 名)
- ・3 種トライアルコース

(兵庫県経営者協会、社会福祉法人 あかね、株式会社 日本ビジネスデータプロセッシングセンターの 3 ヲ所)

- ③ 全国大学実務教育協会が認定する資格取得者
「秘書士 (国際秘書)」は 12 名(うち 4 名は 3 年次取得)、「上級秘書士」は 12 名(うち 2 名が 3 年次取得)が資格を取得した。
- ④ ANA 総合研究所との提携 (講師)
「ホスピタリティ・マネジメント」、「エアライン・ホスピタリティ」の開講、エアライン相談室の実施
- ⑤ 大学基礎講座 (入学前教育) で本学における「キャリア教育」を紹介
- ⑥ ハイレベル キャリアプログラム (5 コース) への支援
- ⑦ ㈱ベネッセ i-キャリアの新入生全員対象とした基礎学力等の調査を目的とする「大学生基礎力レポート」、2 年生対象の「SPI 模擬テスト」、3 年生対象の就職適性検査「キャリアアプローチ」を実施した。
- ⑧ 課外講座：資格・検定対策
「資格サポートオフィス」を設置

【利用状況詳細】

2019 年度受講者延べ人数：142 名

2019 年度受講者実人数：107 名

中でも、Mos-Excel2016・Mos-Word 講座 2016・秘書検定 2 級の受講者数が、2018 年度と比べ増加傾向であった。また、サービス接遇検定 2 級の受講者数に関しては減少傾向にあった。

- ⑨ 「ファイナンス課程」の実施
FP 技能士資格の取得をめざす資格取得課程を実施。
- ⑩ 「公務員対策講座」の開始
資格サポートオフィスと連携し、公務員を目指す学生向けに講座を開講。
2019 年度は 28 名の参加があった(※全員 3 年生)

(21) 教職支援センター

- ① 保育士資格および教育職員免許状 (一種・専修) の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		合 計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種	
授与件数	62	61	21	—	10	—	12	166

- ② 就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭	
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他
	公 1	公-	公-	公-	公-	公-	公 3	公 2	公 2	公 1	公-	公-
	私 16	私-	私 17	私-	私 6	私-	私-	私-	私-	私-	私-	私-
17		17		6		5		3		0		

③ 教員採用試験対策セミナーの実施

④ 教職支援センター年報

教職支援センター年報第 4 号を 8 月 30 日に発行した。

⑤ 教員免許状更新講習

8 月 6 日～8 日に、幼稚園、小学校、中学校並びに高等学校の教諭を対象とした教員免許状更新講習を次のとおり実施した。

領 域	講 座 名	対 象 者	定 員	受 講 者 数
選択領域 (18 時間)	英語教育の最新事情	中学校・高等学校教諭(英語)	30 名	9 名
	「国語」に親しませる授業を目指して	中学校・高等学校教諭(国語)	30 名	5 名
	「家庭科」学びのリニューアル	中学校・高等学校教諭(家庭)	20 名	5 名
	小学校各教科についての課題と展望	小学校教諭	30 名	8 名
	幼児教育についての今日的課題	幼稚園教諭	30 名	27 名

Ⅲ 財務の状況

1. 経年比較

資金収支計算書 (千円)

科 目	H30/3	H31/3	R02/3
学生納付金収入	2,648,613	2,657,374	2,855,889
手数料収入	40,380	48,318	48,805
寄付金収入	16,783	15,255	12,081
補助金収入	515,116	491,515	484,801
資産売却収入	244,169	165,905	81,400
付随・収益事業収入	7,087	5,741	1,055
受取利息収入	117,389	109,626	110,975
雑収入	126,510	170,286	78,770
前受金収入	994,719	1,099,430	1,084,183
その他の収入	391,031	359,974	328,287
資金収入調整勘定	△ 1,012,546	△ 999,981	△ 1,103,248
前年度繰越支払資金	3,757,184	3,579,702	3,701,301
収入の部合計	7,846,435	7,703,145	7,684,298
人件費支出	2,291,590	2,333,270	2,310,098
教育研究経費支出	596,420	649,907	683,142
管理経費支出	362,010	391,636	470,128
借入金等利息支出	5,843	5,129	4,415
借入金等返済支出	52,760	52,760	52,760
施設関係支出	119,429	68,890	54,631
設備関係支出	50,151	79,814	72,457
資産運用支出	494,202	164,901	106,754
その他の支出	323,058	286,109	358,244
資金支出調整勘定	△ 28,731	△ 30,571	△ 45,735
翌年度繰越支払資金	3,579,702	3,701,301	3,617,404
支出の部合計	7,846,435	7,703,145	7,684,298

事業活動収支計算書 (千円)

科 目	H30/3	H31/3	R02/3
学生生徒等納付金	2,648,613	2,657,374	2,855,889
手数料	40,380	48,318	48,805
寄付金	6,171	4,201	3,824
経常費等補助金	511,960	490,402	484,801
付随事業収入	7,087	5,741	1,055
雑収入	126,510	170,286	79,503
教育活動収入計	3,340,720	3,376,322	3,473,878
人件費	2,287,491	2,286,867	2,334,372
教育研究経費	1,017,385	1,056,361	1,070,291
管理経費	405,500	436,302	515,430
徴収不能額等	0	488	0
教育活動支出計	3,710,376	3,780,018	3,920,092
教育活動収支差額	△ 369,656	△ 403,697	△ 446,214
受取利息配当金	115,044	107,280	108,572
教育活動外収入計	115,044	107,280	108,572
借入金等利息	5,843	5,129	4,415
教育活動外支出	5,843	5,129	4,415
教育活動外収支差額	109,201	102,151	104,157
経常収支差額	△ 260,456	△ 301,546	△ 342,057
資産売却差額	81,080	6,738	70,130
その他の特別収入	16,031	13,580	10,357
特別収入計	97,111	20,317	80,487
資産処分差額	1,465	16,336	99,369
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	1,465	16,336	99,369
特別収支差額	95,646	3,981	△ 18,882
基本金組入前収支差額	△ 164,810	△ 297,564	△ 360,939
基本金組入額合計	△ 120,049	△ 125,251	△ 52,153
当年度収支差額	△ 284,859	△ 422,815	△ 413,092

貸借対照表

(千円)

科 目	H30/3	H31/3	R02/3	科 目	H30/3	H31/3	R02/3
固定資産	23,134,786	22,768,966	22,435,315	固定負債	1,072,165	973,002	944,415
有形固定資産	17,212,022	16,906,720	16,567,917	長期借入金	333,320	280,560	227,700
土地	8,437,250	8,437,250	8,425,980	退職給与引当金	714,507	668,103	692,377
建物	6,080,769	5,760,854	5,344,932	退職預り金	24,338	24,338	24,338
図書	2,502,153	2,521,623	2,539,880	徴収不能引当金	2,841	2,841	2,108
機器備品他	191,850	186,992	257,124	流動負債	1,222,369	1,367,334	1,337,778
特定資産	5,754,304	5,702,308	5,772,241	短期借入金	52,760	52,760	52,860
その他の固定資産	168,460	159,939	95,158	前受金	994,719	1,099,430	1,084,183
流動資産	3,616,005	3,730,061	3,644,631	その他流動負債	174,890	215,144	200,735
現金預金	3,579,702	3,701,301	3,617,404	負債の部合計	2,294,534	2,340,335	2,282,193
その他流動資産	36,303	28,761	27,226	基本金	25,829,540	25,954,791	25,938,097
合計	26,750,791	26,499,027	26,079,946	消費収支差額の部	△ 1,373,284	△ 1,796,099	△ 2,140,344
				合計	26,750,791	26,499,027	26,079,946

千円未満四捨五入のため合計があわない場合があります

(1) 資金収支計算書について

資金収支計算書は、会計年度での諸活動に対応するすべての収入・支出の内容及び顛末を明らかにしたものである。資金収入は、当該年度の負債とならない収入以外にも負債となる借入金や前受金のほか、特定資産からの繰入収入などをいう。また資金支出は、当該年度の教育研究活動・その他活動に対する支出で、借入金返済支出、施設関係支出、特定預金への積立等の支出を含んでいる。

平成 31 年度の資金収入では、大学の入学者・在籍者数増加により学生生徒納付金収入が約 198 百万円増加した。寄附金収入は約 3 百万円の減収、補助金収入も約 7 百万円の減収となった。資産売却収入は中高が保有していた青谷寮の売却資金である。雑収入の減少は、前年度が退職者増加に伴う退職金財団からの交付金増があり一時的に増収となった特殊要因によるものである。前受金収入は約 15 百万円の減収となったが、2 期連続して 1,000 百万円台を確保した。受取利息・配当金収入はポートフォリオ運用により安定推移している。

支出面では人件費支出が退職者数の減により約 23 百万円減少したが、教育研究経費支出は約 33 百万円、管理経費支出は約 78 百万円増加する結果となった。教育研究経費支出増加は各種奨学金制度拡充に伴うコスト負担が主たる要因である。管理経費支出に関しては、大学が保有していた六甲山セミナーハウスの建物取壊費用約 78 百万円が発生した一時的な要因である。施設関係支出等の設備投資は教育環境改善に向けた設備投資が中心である。

(2) 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、教育活動・教育活動以外の経常的活動・前記活動以外の活動の 3 区分に対応した事業活動収入・事業活動支出の内容を明らかにし、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入・事業活動支出の状態を明らかにするものである。

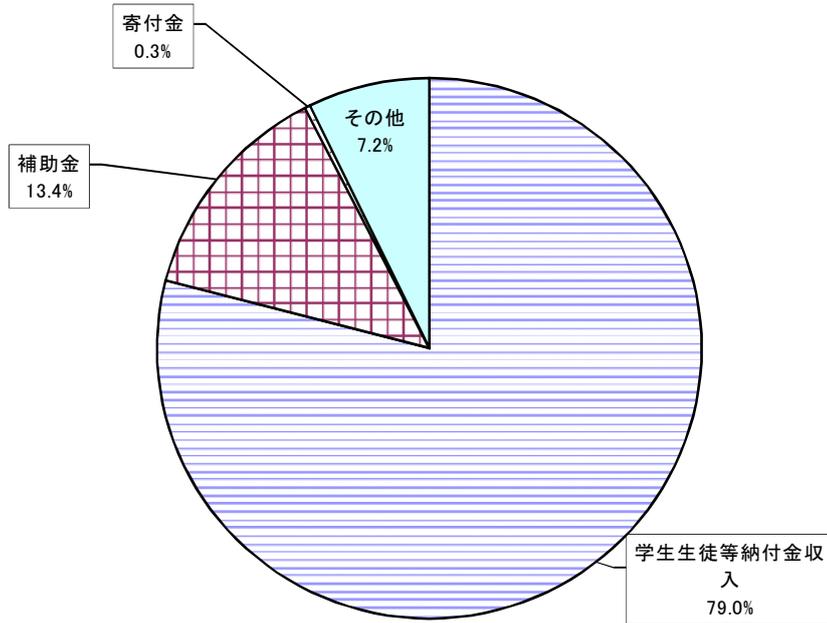
事業活動収入は、当該会計年度の学校法人の負債とならない収入（学生生徒納付金、手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等）で、事業活動支出は当該会計年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するものである。事業活動収支計算は前記 3 区分の活動ごとに事業活動収入と事業活動支出を対照して収支差額を計算すると共に、3 区分の収支差額合計額から基本金組入額を控除する。

資金収支計算書の説明で既述の通り、諸経費の増加や教育環境の向上のため設備投資を積極的に行ったことによる支出増加はあったが、収入面では大学の新入生数が 3 年連続で増加していることもあり収入面での改善は着実に進んでいる。また、保有資産の効率的運用により受取利息・配当金収入も相応の水準を確保している。

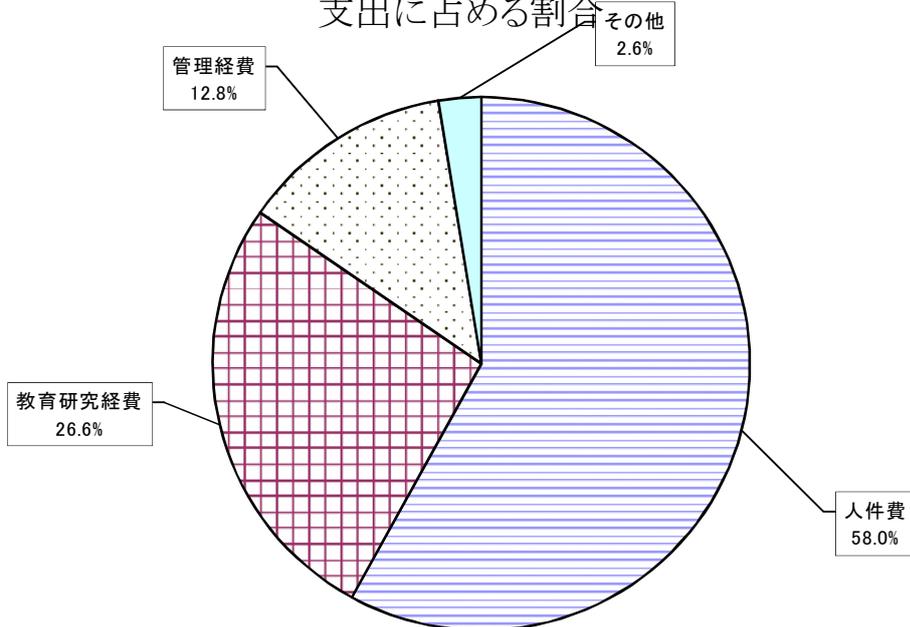
しかしながら、基本金組入前収支差額は約△361 百万円とマイナスが続いている。事業活動収入における学生付金収入割合は前年比+2.1%の 79.0%を占めており、経常費補助金による収入が漸減する中で寄付金収入の増加や受取利息・配当金収入の確保などの収入の多様化が課題である。競争的資金の獲得に向けた取り組みを強化すると共に創立 130 周年を展望して同窓会並びに教育後援会との連携強化を図っていく。

事業活動支出に占める人件費比率は 58.0%と前年度比では 2.2%低下した。実績連動型報酬体系を導入することにより、同比率の大幅な上昇は無いと思われる。また、教育研究経費も 26.6%と前年比と略同水準であり、30%超を目途とした水準引き上げにより教育内容の充実を図っていく。

事業活動収入に占める割合



事業活動 支出に占める割合



(3) 貸借対照表について

貸借対照表とは、期末における財政状態を表したもので、資産・負債・純資産等を示している。
 (説明は、下記「7 主要資産負債の内訳」を参照)。

2. 財産目録

科目		年度		平成 31 年 3 月		令和 2 年 3 月	
一. 基本財産				16,234,049,848	円	15,858,219,715	円
1. 土地							
	(1) 大学校地	44,321	m ²	3,858,185,920	円	44,321	m ²
	(2) 中高等学校校地	13,522	m ²	385,483,264	円	13,522	m ²
	(3) 運動場	38,564	m ²	3,844,312,324	円	38,564	m ²
	(4) その他	43,392	m ²	72,799,495	円	42,860	m ²
	計	139,799	m ²	8,160,781,003	円	139,267	m ²
2. 建物							
	(1) 校舎	48,446	m ²	3,767,356,091	円	48,446	m ²
	(2) 図書館	4,154	m ²	192,847,507	円	4,154	m ²
	(3) 体育館	7,832	m ²	853,605,709	円	7,832	m ²
	(4) その他	4,582	m ²	331,895,365	円	4,582	m ²
	計	65,012	m ²	5,145,704,672	円	64,681	m ²
3. 図書		509,913	冊	2,521,623,113	円	518,107	冊
4. 教具・工具及び備品		19,055	点	186,992,130	円	19,066	点
5. その他				218,948,930	円	128,112,395	円
二. 運用財産				9,742,612,608	円	9,745,705,519	円
1. 預金・現金				3,701,300,512	円	3,617,404,230	円
	現金			8,813,868	円	9,042,235	円
	普通預金			1,624,486,644	円	1,542,361,995	円
	定期預金			2,068,000,000	円	2,066,000,000	円
2. 積立金				5,707,347,089	円	5,777,222,630	円
3. 不動産				276,469,297	円	276,469,297	円
4. 未収入金・前払金・その他				57,495,710	円	74,609,362	円
三. 負債額				2,340,335,244	円	2,282,192,895	円
1. 固定負債				973,001,509	円	944,415,342	円
	(1) 日本私立学校振興・共済事業団			250,470,000	円	227,700,000	円
	(2) 兵庫県私学振興協会			30,090,000	円	0	円
	(3) 退職給与引当金			668,103,161	円	692,376,994	円
	(4) 退職預り金			24,338,348	円	24,338,348	円
2. 流動負債				1,367,333,735	円	1,337,777,553	円
	(1) 短期借入金			52,760,000	円	52,860,000	円
	(2) 前受金			1,099,429,500	円	1,084,183,000	円
	(3) 未払金			14,703,786	円	34,148,999	円
	(4) 預り金			200,440,449	円	166,585,554	円
四. 基本財産＋運用財産				25,976,662,456	円	25,603,925,234	円
五. 純資産(四－三)				23,636,327,212	円	23,321,732,339	円
総負債(三)－前受金							
総資産(四)				4.8	%	4.7	%

(令和2年3月31日現在)

I 資産総額	金	25,603,925,234 円
内 1 基本財産	金	15,858,219,715 円
2 運用財産	金	9,745,705,519 円
II 負債総額	金	2,282,192,895 円
III 正味財産	金	23,321,732,339 円

(注) 資産の評価基準は取得価額基準による。

3. 監事の監査報告書

監査報告書

令和2年5月26日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊 殿

学校法人 松蔭女子学院
監事 山口 純
監事 光葉 正博

私ども監事は私立学校法第37条第3項に基づき、学校法人松蔭女子学院の平成31年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の業務ならびに財産の状況について監査をおこなった結果、次のとおり報告します。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄付行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定および執行は適切であり、業務または財産に関する不正事項、または法令もしくは寄付行為に違反する重大な事実は認めません。

以上

4. 借入金の状況

日本私学振興・共済事業団、(公社)兵庫県私学振興協会からの借入金は前年度残高から約定返済分52,860千円が減少した結果、期末総借入金残高は280,560千円になった（1年以内返済予定分52,860千円を含む）。

5. 資金調達の状況

新たな資金調達はない。

6. 寄附金の状況

施設設備特別寄付金 8,256 千円、その他寄付金 3,825 千円、現物寄付 2,100 千円計 14,181 千円の寄付を受けた。

7. 主要資産負債の内訳

主要科目の増減

大学では、教室の 2 号館教室の個別空調化、テニスコート照明灯取り換え、5 号館各教室の設備更新、構内 Wi-Fi 環境強化など教育環境の向上および学生生活の快適性向上を主眼とした設備投資を実施した。また、六甲山セミナーハウスの借地契約期限到来に際し、建物を取り壊すと共に土地を返還した。

中高では、トイレ改修を実施した他、青谷寮の土地・建物を売却した。

その結果、土地が約 11 百万円減少、建物は減価償却の進行もあり約 330 百万円の減少となった。六甲山セミナーハウスの土地返還により借地権約 84 百万円を全額除却したことで「その他固定資産」は減少している。

特定資産は退職給与引当特定資産と施設拡充引当特定資産等で約 70 百万円積み増しを行った。図書は新規購入等により約 18 百万円増加した。

8. 補助金の推移

				(千円)		
				H30/3	H31/3	R2/3
国庫補助	中 高			3,527	648	245
	大 学			183,010	170,540	176,320
	計			186,537	171,188	176,565
地公体補助	中 高			322,272	314,339	302,128
	大 学			6,307	5,988	6,108
	計			328,579	320,327	308,236
合 計				515,116	491,515	484,801

中学高校に対する補助金および大学への補助金は、経常費補助金、施設整備関連補助金の合計は前年度比△6.7 百万円であった。今後も各学部平均した定員充足率達成に向け注力し経常費補助金の増加を図る。

9. 科学研究費補助金の受入状況

科学研究費補助金は、16 件、12,808 千円を受け入れ、前年度に比べ 5,798 千円増加した。引き続き研究者による積極的な応募を促進し、件数・金額の増加を図る。

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校の教育関係

毎年度初めには、学校運営方針を定めて教職員で確認しているが、日々の具体的な教育活動にどのように落とし込むかが課題である。特色ある私学教育を実践し、社会に周知することで、公教育の一翼を担いながらも建学の精神を活かすことができる。そして入学定員を確保する方策となる。

2. 中学校、高等学校の生徒募集計画

中学入試においては、少子化に加え、新型コロナウイルス感染症による景気悪化が生徒募集計画に悪影響を及ぼすことは確実である。2つの課題がある。第一に新たな「受験者層の掘り起こし」により、私立中学受験率を上昇させることである。他私学との共闘、協働により「公立中高より私立中高の教育サービスは質が高い」という評価が、一筋の流れとして新たに引き出せるようにすることを考えたい。第二に、建学の精神にもとづく特色教育をさらに打ち出し、私学のなかでも存在感を大きくすることである。本校は、明治期には珍しかったネイティブ教員による英語教育と、家庭科（裁縫）教育を柱に打ち出してスタートした。変わらぬもの、変えるものを取捨選択し、冒頭のメッセージで述べた新たな付加価値を、2020年度からのストリーム制に加える。2020年度からの新規授業科目「ICT English」の設置や小学生対象の英会話講座（松蔭 ELS 講座）の拡充は、その具体化である。

高校募集では、感染症による休校の長期化が、本校の「専願入試」「推薦方式」のもとでの高校受験において「安心感」を与えることを予測する。成績その他の推薦基準を満たしさえしていれば、当日の入試得点の合否判定への影響が少ないからである。この点の周知が募集上の課題である。以下、具体的に各項目をあげる。

- (1) 「英語の松蔭」を合言葉に、特色ある教育課程作りとプログラムの企画を行い、アピールする。
- (2) 中学募集活動、高校の募集活動は、WEB 説明会を実施する。
- (3) 帰国生の入学、編入学について、国内外での広報活動を展開するとともに、柔軟な制度運用をはかる。
- (4) 学院内の中高、大学の連携を深め、広報・募集活動での連携を強化する。
- (5) 英検受験会場の提供と、学外小中学生への広報活動を推進する。
- (6) 児童生徒数が増加中のエリアを広報重点地域とし、地域密着型説明会（各地区出張ミニ説明会）活動を拡大する。
- (7) 中高同窓会（千と勢会）だけでなく、大学・短大同窓会（大学千と勢会）の協力を得て卒業生や関係者への広報をはかる。

3. 大学の新学部・新学科等の増設等

2019年4月から「文学部」「人間科学部」の2学部8学科体制から「文学部」「人間科学部」「教育学部」の3学部7学科体制への改編を行ったことや継続して実施してきた教育改革の成果もあり、2020年5月現在の学部の収容定員充足率は96%まで回復した。当面は、教育改革を継続することとし、学部・学科についての新增設は計画していない。

なお、大学院については、教育改革に取り組むとともに学生募集が困難な分野の学生募集の停止を計画している。

4. 大学の教育・研究関係

本学が取り組むべき課題のひとつに「学修成果の評価」がある。学修成果を評価する方法として

は、学修ポートフォリオ、外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定（アセスメントテストなど）、学生の学修経験等を問うアンケート調査（学修行動調査など）、学修成果の観点・基準を定めたルーブリック、などがある。

学修ポートフォリオとして、2019年度は、学修支援システム松蔭 manaba 内で運営するキャリアコース「Shoin キセキ」により、学科の学びの目標とふりかえりレポートの作成を1年生を中心に実施した。学科の学びの目標については前期時点で74.8%の提出率であった。今後は上級学年に広げ、レポートの作成と連携した教員による指導を徹底することにより、学年の学びの発展を見守るシステムとして改良していく。

外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定をおこなうものとして、新しいアセスメントテストへの移行を図る。ディプロマサプリメント（学位補助資料）としての学修成果の明示を念頭におき、学年を追って新テストの運用を計画する。

学生の学修経験等を問うアンケート調査としては、2018年度卒業生より卒業時アンケートを実施している。これについては新たに発足したIR運営委員会を中心にその内容を見直し、キャリアサポートセンターで実施していた進路満足度調査と合わせた形で、在学中の学修・生活状況を把握するものとして、より有効なものとするように改訂した。

学部学科の教育プログラムにおいて、その教育課程の重要な成果指標のひとつと位置づけられる卒業研究のさらなる質の向上に向けた取り組みを進めている。2019年度に各学部学科に向けて「卒業研究の科目設定の指針」を発信し、科目シラバスの統一、成果発表の機会設定といった具体的な形での進展を図った。「卒業研究の科目設定の指針」にもとづく全学的な科目設定・運営の改善状況を点検し、ルーブリック評価の導入を含めた卒業研究の改善および充実に努めたい。学修成果の把握については成績評価の公平性や厳格な成績評価の実施が前提となるため、開講科目の成績分布を学内で公表している。今後それに関する報告を学科・センターから受け、成績分布が極端に偏らないように改善するための具体策を講じたい。

学生が学びあう体制を整備することも本学が取り組むべき課題のひとつである。スチューデント・アシスタント(SA)、ティーチング・アシスタント(TA)制度の整備として、2019年度にはより良い授業運営をめざしSA・TAなどピアサポート制度において研修実施を規定化した。また、学生が能動的に学修し、協働することを学ぶ場として各種の課外活動への積極的な取り組みを促した。キャリアコース Shoin キセキ内のレポートとして「アクティビティ・ログ」の作成を促し、各種クラブ活動・サークル活動のほか、チャペル奉仕活動、オープンキャンパス学生スタッフなどの学内活動、地域連携・産学連携活動への積極的な参加を促すと同時に、学外での多様な活動や資格取得・検定受験などにも目を向けさせるような仕組みづくりに取り組んだ。今後は上級学年まで継続し、在学期間を通じた活動記録として活用し、将来のキャリア形成に向けた早期の意識改革に結び付けたい。

5. 大学の学生募集計画

2020年年度新入生の募集については584名（定員570名、定員充足率102%）の入学となり、昨年度より若干の減少となったが、定員確保を達成することができた。しかしながら、全学部・学科での定員確保には残念ながら至っておらず、引き続き安定した定員確保に向けての学生募集を地道に進めていく必要がある。

2021年度新入生の募集については、文部科学省の新たな大学入試制度が開始され、これに伴い本学の入試制度の変更を行い、引き続き志願者層の拡大に向けて広報活動を行う計画である。以下はその主な変更点である。

- (1) 昨年度のAO入試を総合型選抜（AO入試）に名称変更し、Ⅰ期 Ⅱ期の2日程から1日程の実施とする。
- (2) 昨年度の公募制推薦入試を学校推薦型選抜に名称変更し、A日程に世界史、日本史を追加し、数学、生物、化学をA日程、B日程、C日程にて受験可能とした。
- (3) 昨年度の一般入試を一般選抜に名称変更し、A日程に世界史、日本史を追加し、数学、生物、化学をA日程、B日程、C日程にて受験可能とした。D日程は廃止した。
- (4) 大学入学共通テスト利用入試（旧：大学入試センター試験利用入試）については、D日程を廃止し、A日程、B日程、C日程の3日程の募集とした。「大学共通テストプラス入試」は引き続き、A日程、B日程で実施する。
- (5) 以上のように、各入試区分において受験可能な科目を増やし、志願者層の増加を図る。
- (6) また広報面においては、大学案内の改善をさらに進め、本学ならびに学科・専修の魅力をアピールし、本学の知名度の向上ならびに志願者数増加を図る。
- (7) SNS等による本学の情報発信を引き続き推し進め、本学の公式サイトを介して受験生やその保護者、高等学校に対して最新の情報を発信し続けることで、本学をアピールし、志願者数増加を図る。

6. 施設・設備関係

【中学校・高等学校関係】

(1) 校内施設の整備

昨年度策定した「中学校・高等学校営繕5カ年計画」の初年度は、体育館の内腰壁の張替工事及びトイレのリニューアル工事を実施し、和式便座から洋式温水洗浄便座へ変更した。

2020年度は、PCB入り蛍光安定器処分を実施し、翌年度以降は各塔屋屋上防水改修工事、外周フェンス改修、電気室受電設備更新を年次計画案に沿って順次実施する。

(2) 不稼働施設の早期処分

2019年度は永年不稼働施設となっていた青谷寮の売却が完了した。同じく永年閉鎖中となっている赤倉寮の処分については、売却先が決まらず難航しているが、売却活動をより加速していく。

【大学関係】

(1) 中期的な計画営繕を基にキャンパス整備を進める。

(2) 2020年度は2号館空調個別化工事、9号館屋根、外壁工事、9号館トイレ改修工事、2、5号館LED化工事、7号館冷房増強工事など、キャンパス整備を進める。

7. 財務関係

(1) 財務体質の強化に向け年度内収支均衡を意識した財務運営を継続することを原則とするが、学修環境の維持・向上への設備投資に関しては費用対効果を勘案しつつ重点的な予算配分を行う。

(2) 併せて、将来の営繕を含めた設備更改への備えとして自己資金蓄積を引続き計画的に進める。その一環としてポートフォリオ計画に基づき資産運用を継続し、校納金並びに寄附金以外の安定収入確保にも注力していく。

(3) また、管理経費の削減を進める一方で、特色のある高等教育機関としての予算配分・予算執行に注力し、教育研究費比率の維持向上と学生サービス、学生満足度の向上のバランスの取れた運営に留意していく。